春嶽公記念文庫解説目録

―追贈 什器・文書編―

保存

春嶽公記念文庫解説目録

―追贈　什器・文書編―

福井市立郷土歴史博物館編

はじめに

昭和四十五年十二月、松平永芳氏（当時の福井市立郷土歴史博物館長）の申出により、松平家の「春嶽公記念文庫」は福井市に寄贈され、「福井市春嶽公記念文庫」が誕生した。

文庫は、市条例によって、その呼称を踏襲して永久に保存すると共に、学術、文化、教育等のために有効に活用する旨約束された。

右約束に基き、文庫内容を逐次明らかにして、研究、利用者等の便宜を計るため、四十七年三月に「春嶽公記念文庫解説目録 ―文書編―」を、四十九年三月に「春嶽公記念文庫解説目録 ―什器編―」を発刊、内外学界に多少なりとも寄与することができた。

文庫の整理成り、右什器編の刊行を機会に、松平氏は第一次寄贈後更に整理された史・資料、什器類を第二次分として、再び福井市に寄贈された。その分の目録が、この度刊行の「春嶽公記念文庫解説目録 ―追贈 文書・什器編―」である。従って、松平家からの寄贈文庫の内容は、本編と既刊二編の計三編をもって、その全貌が始めて理解されると言うべきである。

尚、三編に掲げられた貴重な史・資料、什器類等は、後掲市条例等の精神に基いて、福井市が責任をもって永久に保存するものである。

昭和五十年三月

福井市教育委員会

参考注記

「春嶽公記念文庫」について

安政五年七月（一八五八年）、時の大老井伊直弼と政治上の意見を異にした福井第十六代藩主春嶽松平慶永公は、幕命によって隠居謹慎を命ぜられ、藩主の座を退いた。

代って大老の推した糸魚川松平家の直廉公が養嗣子として迎えられ、第十七代藩主松平茂昭公となった。

尚、第十八代康荘、十九代康昌両氏を経て現当主は宗紀氏であるが、これが福井松平家の家系である。

これより先、明治十五年に隠居たる春嶽公の実子として誕生した松平慶民氏は、既に福井松平家の後継者が確立して久しいから、改めて自分が本家を相続する必要なしと、十八代康荘氏の順養子として本家の相続人としようとする大勢を固辞して、明治末期に、別に一家を創立して独立した。

これがため松平家に於ては、春嶽公の遺命にもとづき、公の遺文、遺品、拝領、受贈品等、公一代限りの物件一切を慶民氏の手に移管し、その保護、継承を託した。

ここに於て氏は、大正六年、東京麻布の邸内に「春嶽公記念文庫」を創立し、その父君である公を中心とした維新史料を後世子孫の為に積極的に整理保存することと、明治四十四年に文部省内に設定された「維新史料編纂会」の編纂事業を側面から支援することに努力を傾注し、多大の成果を収めて昭和二十三年に他界した。

その嗣子永芳氏（前郷土歴史博物館長）は、第二代文庫主として、戦後の混乱時代に於ても収蔵品を散佚することなく、よくこれ等の保護につとめ、昭和二十八年福井市立郷土歴史館が創立されるや、その一部を更に、四十三年以降はその大半を寄託し、四十五年館付属の史料収蔵庫が完成するに及んで右文庫を福井市に寄贈した。

福井市に於ては、文庫名を踏襲し、これを永久に保存し、学術、文化、教育の資として活用する旨を市条例により決定し、ここに「福井市春嶽公記念文庫」が誕生した。

以上が文庫の大要であるが、まことに遺憾なことは、大東亜戦争末期に、福井の安全を期待して東京から福井神社宝物館に疎開された文庫収蔵品の一部が、かえって戦火により烏有に帰したことである。

福井市春嶽公記念文庫条例

昭和四十五年十二月二十六日
条例第四十三号

（文庫の設置）

第一条　松平永芳氏の寄付にかかる元松平家春嶽公記念文庫をもって、福井市春嶽公記念文庫（以下「文庫」という。）を設ける。

（管　理）

第二条　文庫は、福井市立郷土歴史博物館において、最も確実、かつ安全な方法により保存管理しなければならない。

（運　用）

第三条　文庫は、文化、教育の振興ならびに郷土史研究のために有効に活用しなければならない。

（事　業）

第四条　この条例に定めるもののほか、文庫の保存および管理運営について必要な事項は、福井市立郷土歴史博物館条例（昭和四十五年条例第四十四号）の例による。

附　則

この条例は、公布の日から施行する。

福井市立郷土歴史博物館設置条例

昭和四十五年十二月二十六日
条例第四十四号

（設　置）

第一条　郷土の歴史（考古を含む。以下同じ）に対する関心を高め、先哲、祖先の足跡のもとに健全な教育、学術および文化の発展に寄与するため、福井市立郷土歴史博物館（以下「歴史博物館」という。）を設置する。

（位　置）

第二条　歴史博物館の位置は、次のとおりとする。

福井市足羽一丁目八―十六

（事　業）

第三条　歴史博物館は、次の事業を行なう。

(1)　郷土の歴史を主とする一般史資料（以下「一般資料」という。）の収集、保存および活用に関すること。

(2)　福井市春嶽公記念文庫条例（昭和四十五年条例第四十三号）による福井市春嶽公記念文庫（以下「文庫」という。）の保存および活用に関すること。

(3) 一般史資料および文庫に関する案内書、解説書、目録等の作成ならびに頒布。

(4) 郷土の歴史に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催。

(5) 郷土の歴史に関する調査研究ならびに資料提供に関すること。

(6) その他第一条の目的を達成するために必要な事業。

（歴史博物館協議会）

第四条　歴史博物館に、博物館法（昭和二十六年法律第二八五号）第二十条の規定により、歴史博物館協議会を置く。

(2) 歴史博物館協議会の委員の定数は十人以内とする。

(3) 委員の任期は、二年とする。ただし再任を妨げない。

(4) 補欠により就任した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（職　員）

第五条　歴史博物館に館長、その他必要な職員を置く。

(2) 歴史博物館協議会は、館長の任命に関し、意見を具申することができる。

（委　任）

第六条　この条例の施行について必要な事項は、別に教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は、公布の日から施行する。

記　事

前掲二条例をうけて、「昭和四十五年十二月二十六日福井市教育委員会規則第五号、福井市立郷土歴史博物館設置条例施行規則」及び「昭和四十五年十二月二十六日福井市教育委員会訓令第一号、福井市春嶽公記念文庫保存および管理運営に関する規程」等によって文庫の取り扱いは、更に詳細に明示されている。

凡例

一、本解説目録は、昭和四十九年三月、「福井市春嶽公記念文庫」へ追加寄贈された史資料を文書、什器の二類に大別し、更に「文書」の部を一、記録。二、古文書。三、典籍。四、絵図・写真類の四項目に、また「什器」の部を一、肖像。二、書蹟。三、絵画。四、拝領品。五、武具。六、日常手沢品。七、諸道具の七項目に細分してある。

但し、此度の追贈品中には、第二類の五、武具の項に該当するものが含まれておらぬので、この項目は省いてある。

一、本目録の記載順は、名称、員数、解説とし、解説欄は作者（著、編、筆者名を含む）・材質・法量の順に記し、必要に応じて箱書・由緒書などを「」を付して原文のまま引用、更に（）を付して内容、人物解説などを加えてある。

一、法量は普通一〇×一七などと縦・横の順に糎単位で示したが、立体については高さ、口径等、その都度部位の名称を記してある。

一、「」内には、箱書・由緒書などの外に史資料の本文、例えば七絶書幅であれば、その七言絶句自体を記載した箇所もある。

一、人物解説は史上高名な人物、例えば徳川慶喜・西郷隆盛はこれを省き、郷土越前関係人の紹介を主眼として簡略に解説してある。

目次

什器の部

一、肖像……1～11
二、書蹟……13～23
三、絵画……25～28
四、拝領品……29
五、武具……（該当資料なし）
六、日常手沢品……29
七、諸道具……31～38

文書の部

一、記録……39～44
二、古文書……45～60
三、典籍……61～67
四、絵図・写真……69～71

〔表紙図案解説〕

表裏表紙の松平春嶽署名類は、本文庫所蔵の松平春嶽自筆書翰、著述類、各種写本類等より転写したものである。

鉄群青色平紬地花菱亀甲文飛鶴に松竹梅模様腰巻

肖像

松平　茂昭

松平　春嶽

松平　勇子

松平　勇子

松平春嶽生母　青松院通子

田安　慶頼

松平春嶽実姉　錄姫

松平春嶽実妹　筆姫

岩倉　具視

岩倉　具視

近衛　忠房

三條　実美

徳川　慶喜

徳川　慶喜

徳川　昭武

徳川　昭武

徳川　慶勝

徳川亀之助（後の家達）

鍋島　直正

松平　容保

伊達　宗城

山内　容堂

島津　忠義

伊達宗城・同家族

毛利　元徳

大聖寺藩主前田某

池田　章政

細川　韶邦

秋月　種樹

蜂須賀茂韶

土屋　寅直

丸亀藩主京極某外

大久保忠寛

戸田　忠至

勝　　海舟

勝　　海舟

榎本　武揚

山岡鉄太郎

澁澤　栄一

近藤　　勇

後藤象二郎

大隈　重信

江藤　新平

桐野　利秋

加藤　弘之

柳川　春三

廣澤　真臣

副島　種臣

小松帶刀外薩摩藩士

別府　晋介

伊藤　博文

鈴木準道外福井藩士

村田　氏寿

佐藤　尚中

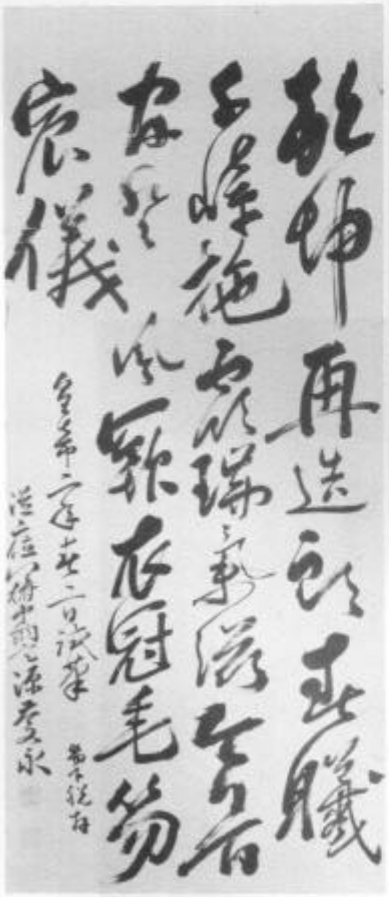
市川　齋宮

島　雪齋

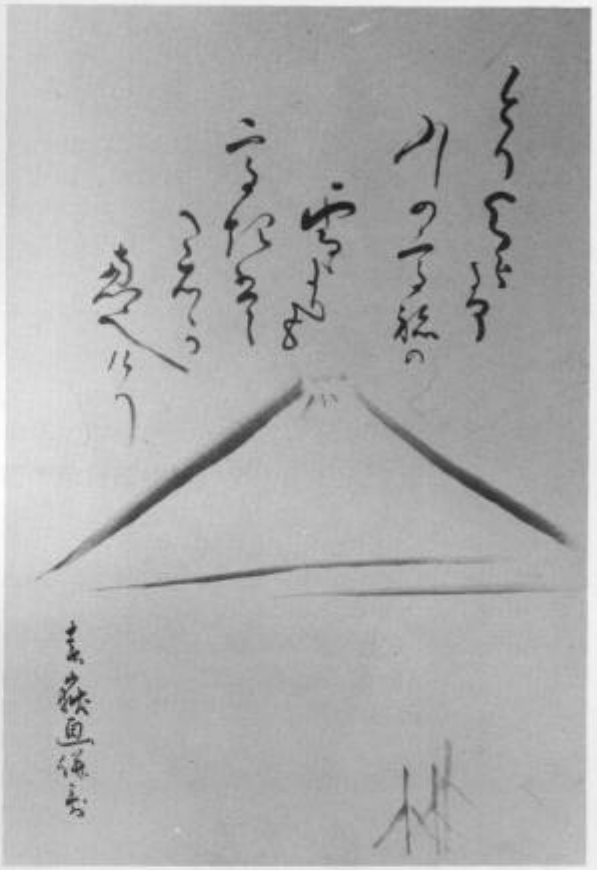
書蹟

松平春嶽11歳の書扁額

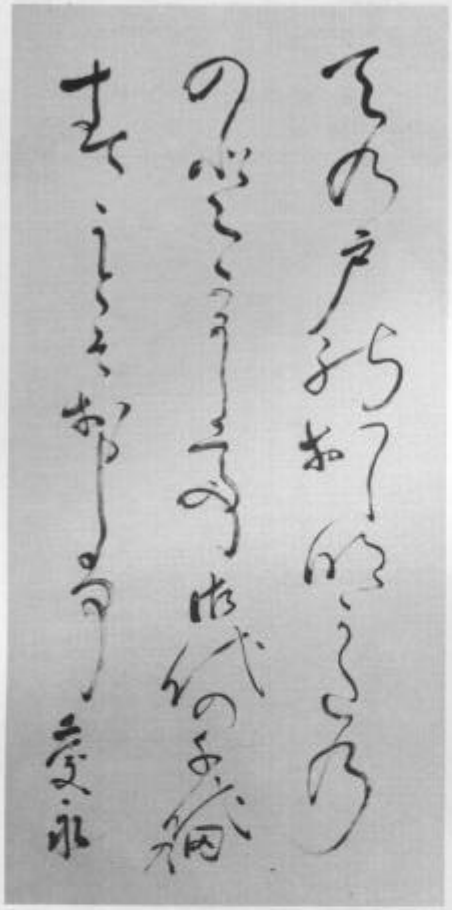
松平春嶽書幅



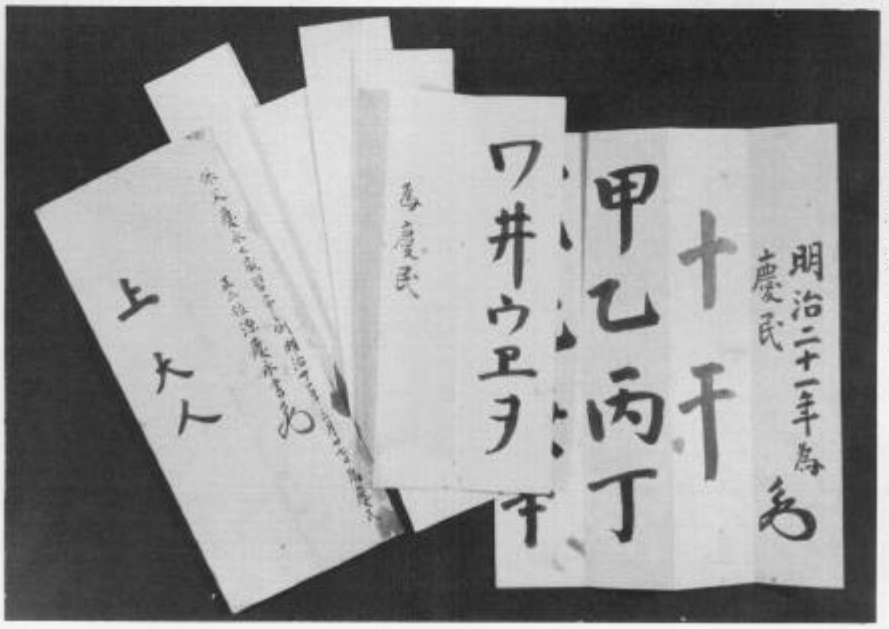
松平春嶽書幅



松平春嶽筆富士の画



松平春嶽筆和歌



松平春嶽筆習字手本

山内容堂扁額

半井仲庵扇面書幅

松平春嶽扁額

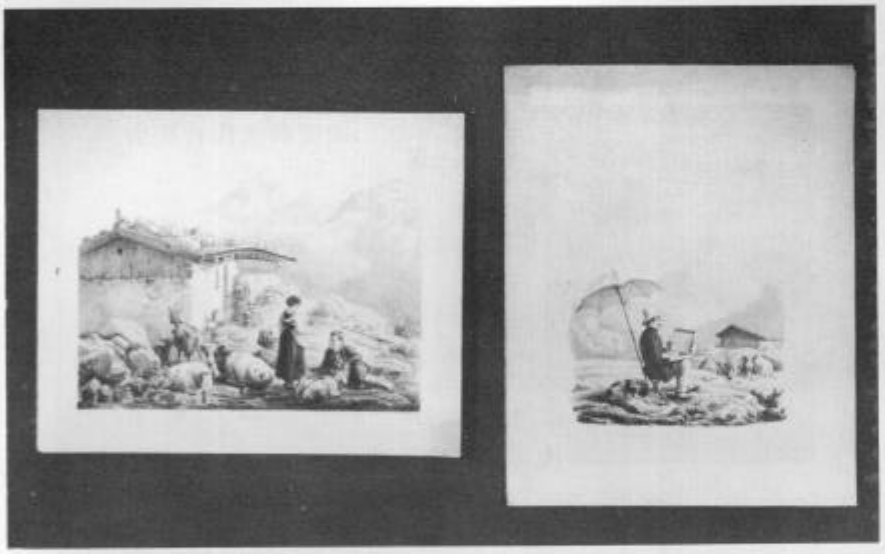
絵画

吉嗣拝山山水画

川地柯亭山水画

横浜風景版画

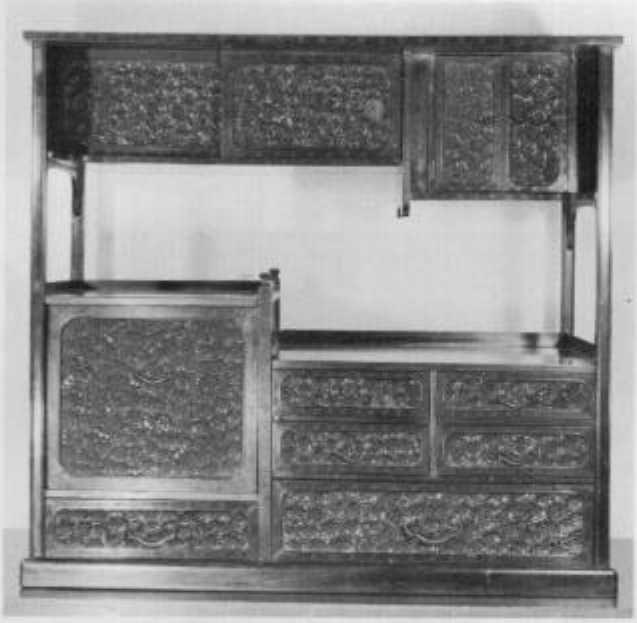
舶来絵画類



諸道具

田安齋匡作竹花生

松平春嶽所用　梅花模様紫檀棚

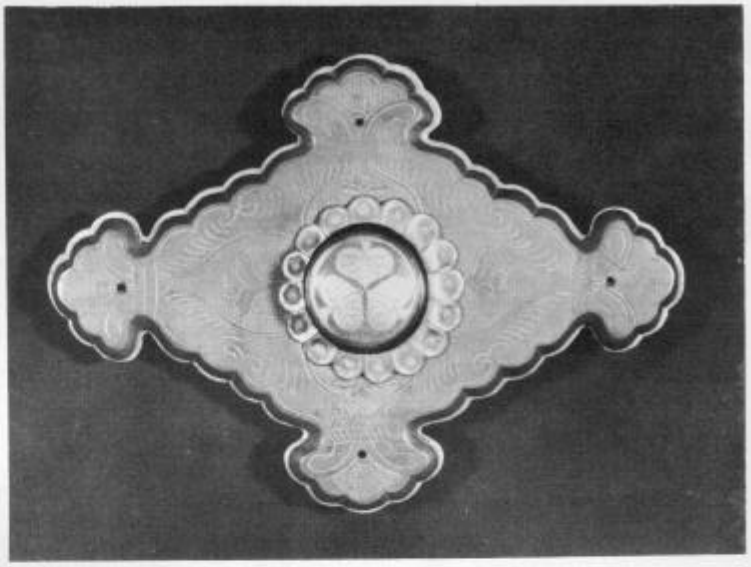


浅井外卷作　茶室襖用曳手

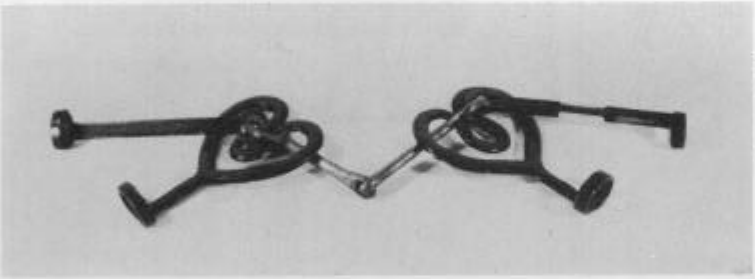
松平春嶽手製　三国焼酒盃

伊達宗紀百歳磁賀盃

松平確堂古稀桑製寿盃



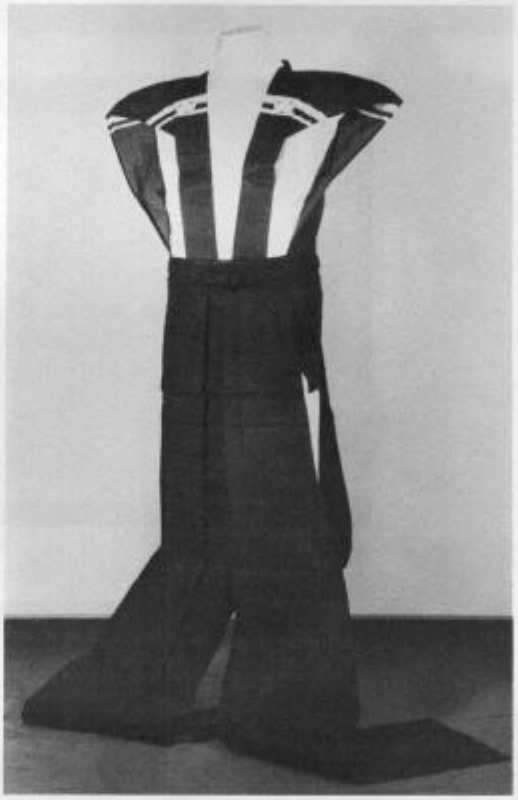
葵紋付行楽亭釘隠



葵葉形轡

松平春嶽着用　火事装束

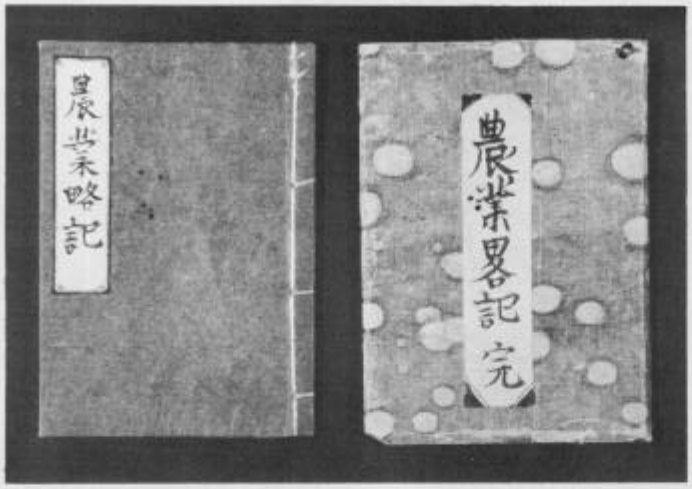
緑楊柳変地御所車に草花流水模様小袖



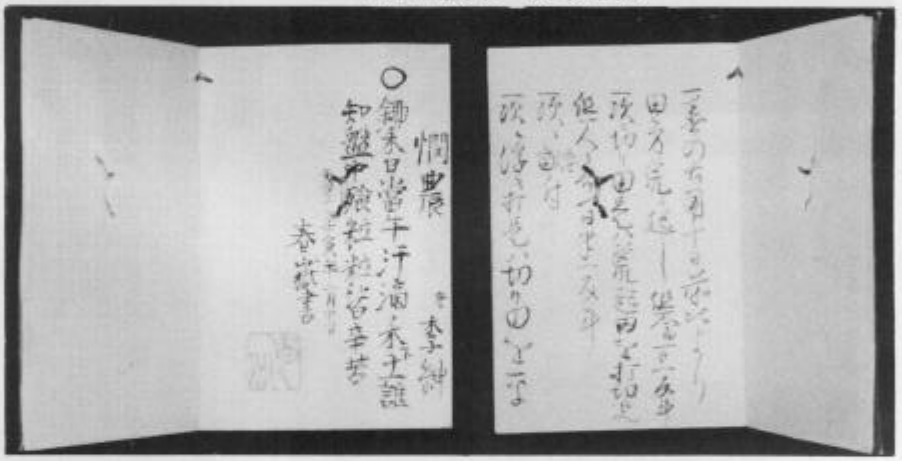
松平春嶽着用葵紋付嘉珍長上下

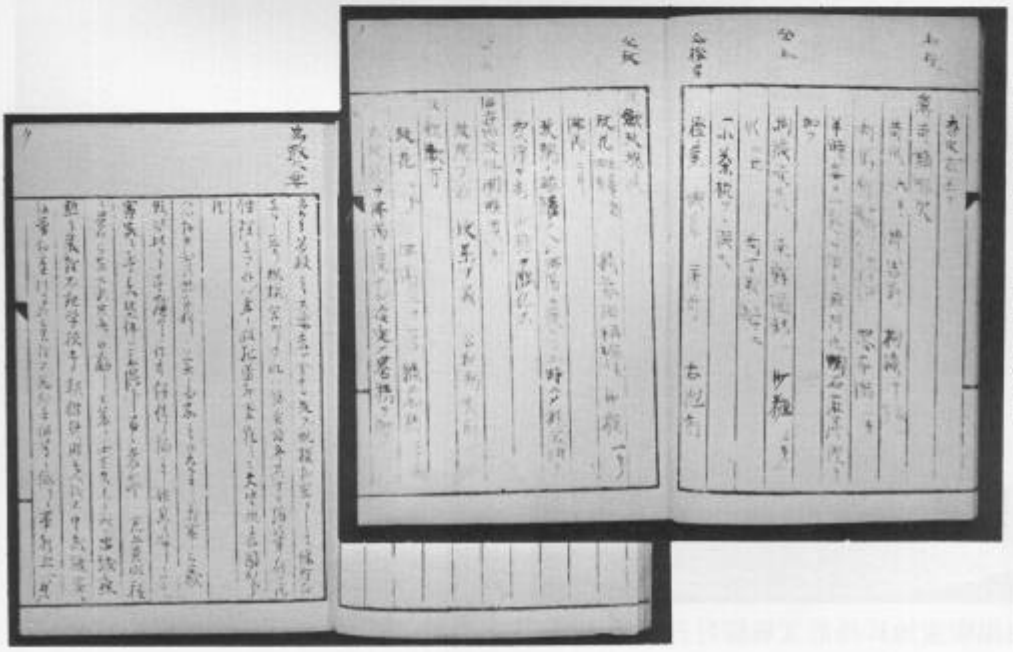
白楊柳変地紗綾形文藤桜牡丹模様小袖

記録



松平春嶽筆　農業略記



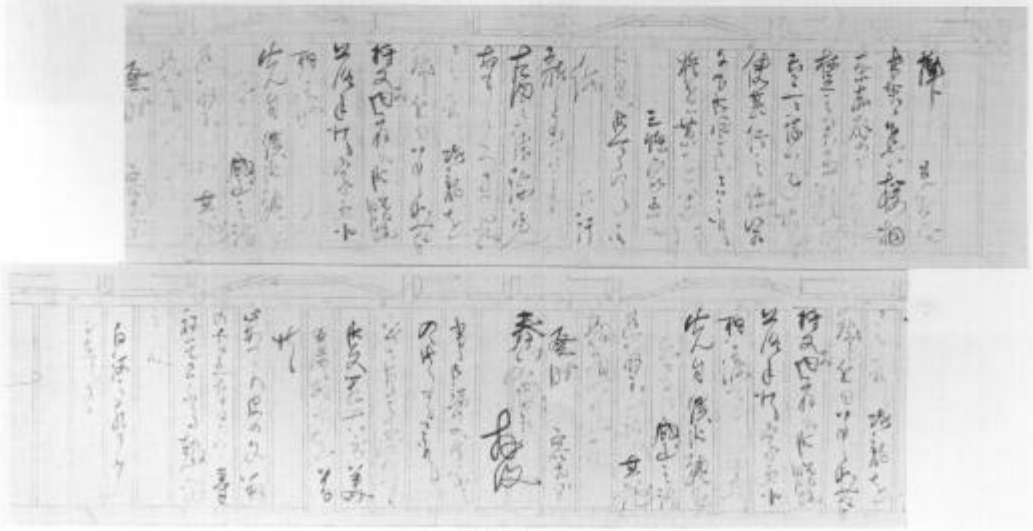


橋本左内筆　景岳先生雑記

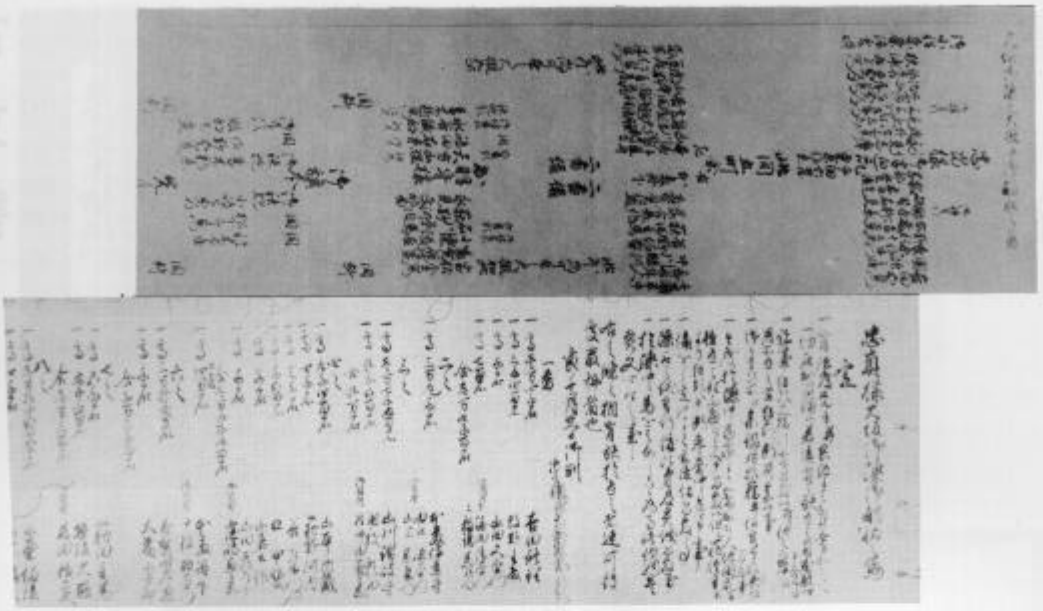
古文書

松平光通書翰

松平春嶽書翰



山内容堂書翰

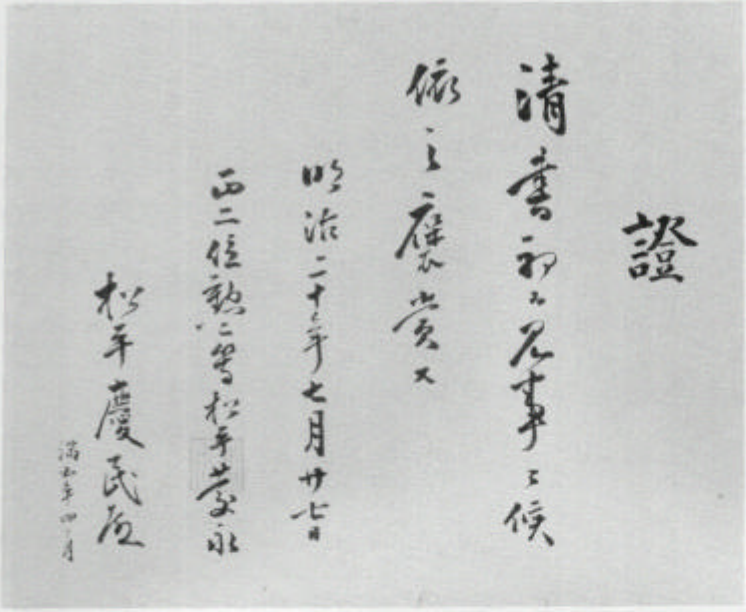


大阪御陣之大概

橋本左内書翰添書

浅井八百里書翰

松平春嶽褒賞状



證

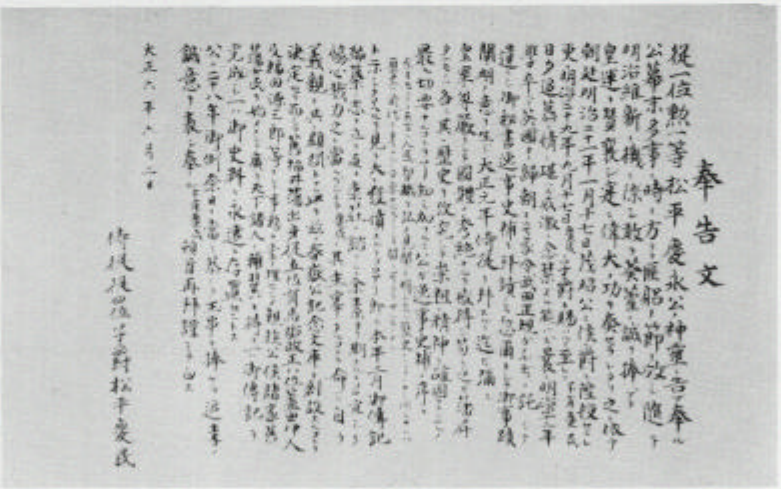
清書初ノ名事ニ候
依テ褒賞ス

明治二十七年七月廿七日

正二位勲二等松平慶永

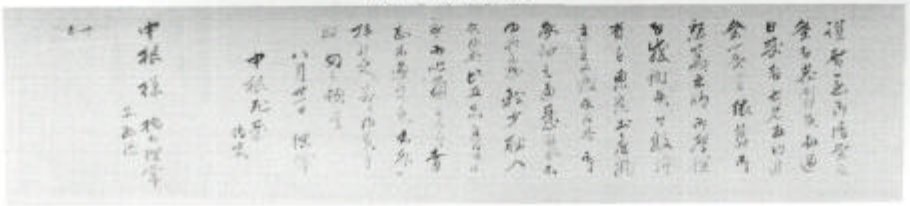
松平慶民殿

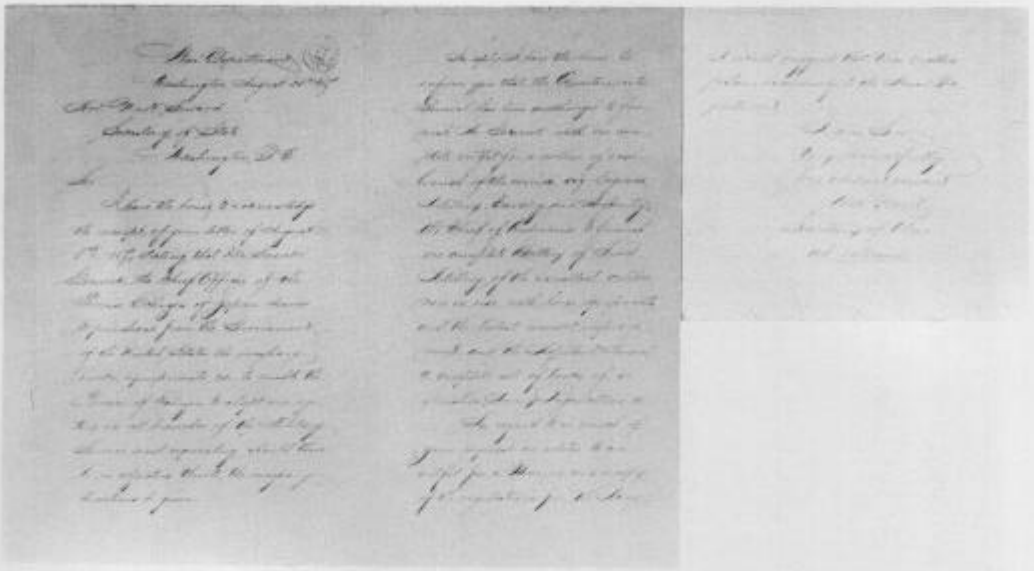
松平慶民奉告文



奉告文

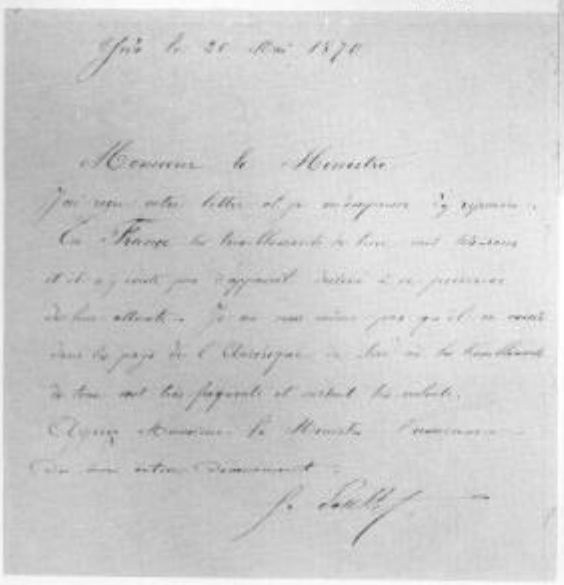
橋本綱常書翰





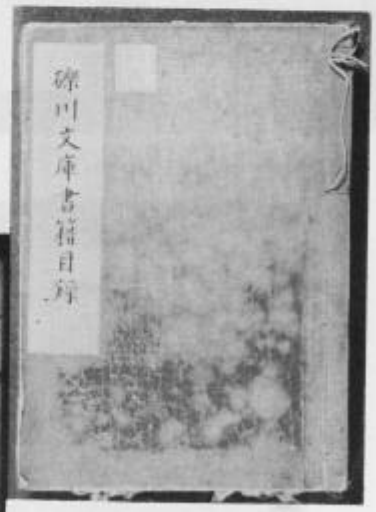
U・S・グラント書翰

ブセー・ガロー書翰



典籍

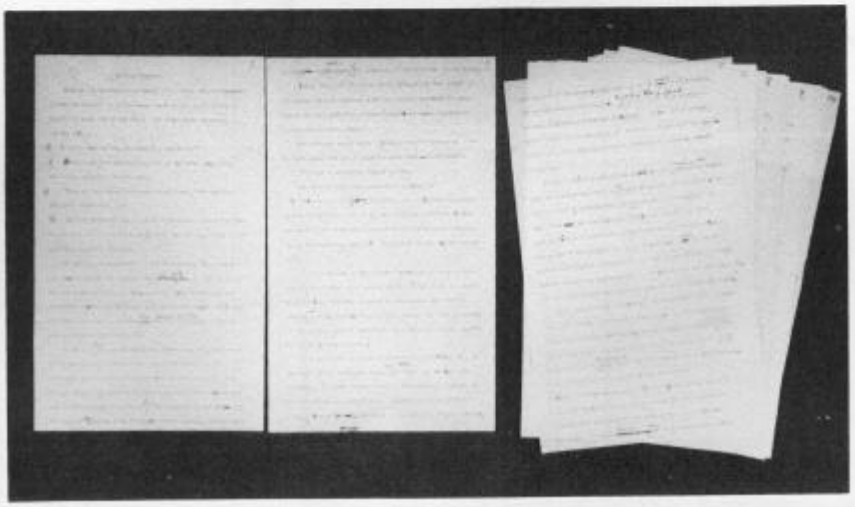
常磐の古言



礫川文庫書籍目録

THE ILLUSTRATED LONDON NEWS外

THE ILLUSTRATED LONDON ALMANAC



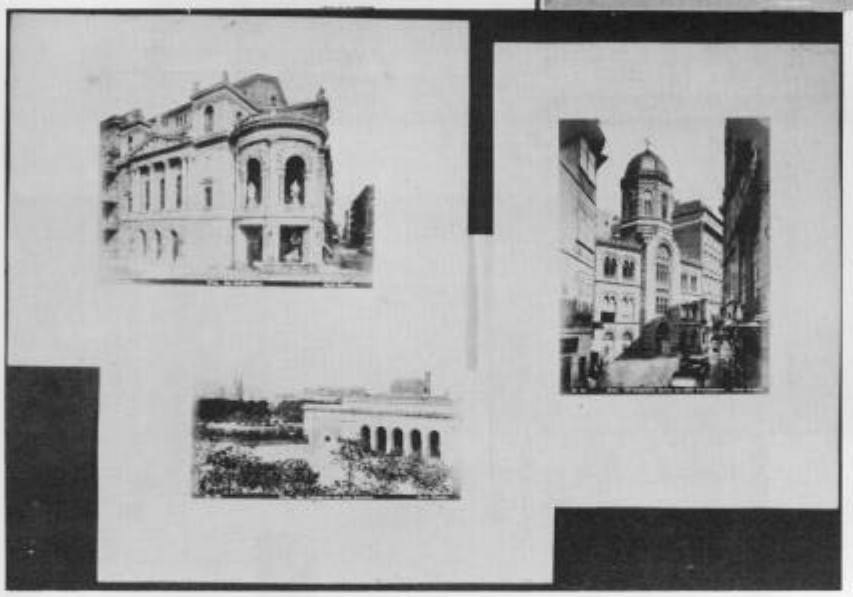
W.E.グリフィス著
ECHIZEN SHUNGAKU　タイプ原稿

絵図・写真

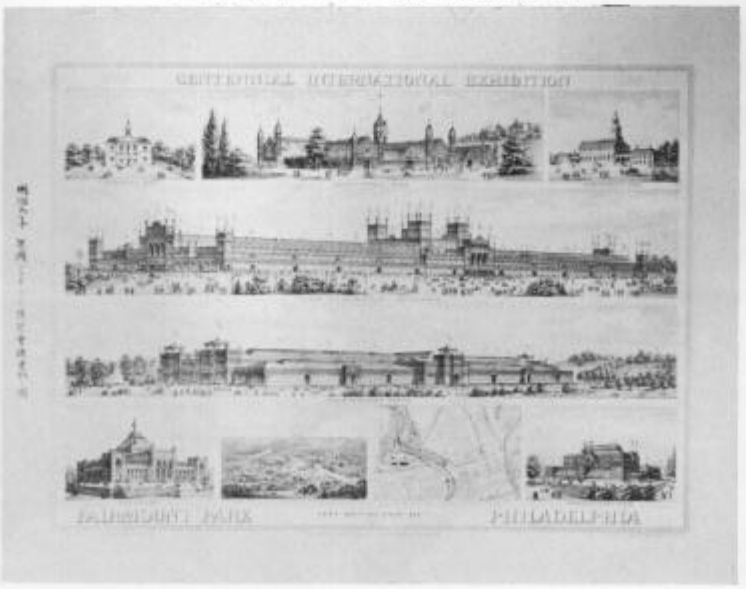
越前国大野城破損修復之願絵図

福井城下慶祝風景写真

ウィーン写真帳



フィラデルフィア万国博覧会の図



什器の部

一、肖像

一、肖　像

一、徳川秀忠画像（複製）並びに添書（笹川章門筆）　一額

東京帝国大学発行　紙本活版　六二・三×四六・七　添書一八×三一・五

添書「徳川二代将軍秀忠公御肖像　右結城孝賢[マヽ]寺什物の処、松平直之殿御家[江]　右御像幅御引取[ニ]相成　文部省史誌編纂に於て右版に御写し取被進之　明治四十三年十二月　章門誌」

（添書の笹川章門は、越前松平家家従であり、肖像画は明治四十三年十月三十日複製発行されたものである。）

一、中根雪江紋付姿写真複写本　一葉

一五×一〇・五

（台紙付で、台紙表に、松平慶民が「中根雪江翁　明治八・九年頃写真　佐々木忠次郎氏所蔵ノ複写」と記している。）

一、岩倉・三条両公肖像画　二面

三七・五×四七・五

（明治中期頃、岩倉具視・三条実美の写真をもとに画家が描いたものである。）

一、外国元首等の肖像写真　四葉

三〇・二×二一、三八×二九・六、四七×三一

（ヴィクトリア女王　一葉・マッカーサー陸軍少将　一葉・ヴィーレム二世　二葉の写真で、明治初年から同二十三年の間に撮影されたもの。）

一、元帥フレデリック・カール・フォン・プルーセン殿下の肖像画　一葉

七五・五×五五・五

（明治三年直後に描かれたもの。）

一、外国元首の肖像画　六葉

四五×二八・七、四一×三一、四〇・二×三〇・五、三〇・五×四〇・五、三九・五×二三・四、四九・五×四〇

（ナポレオン一世　同三世　ウィレム一世　アレキサンダー二世　マリー女王　ピーター・デ・グルート　ウェブスターの肖像画で、明治初年から明治二十三年に描かれたもの。）

一、ウィルヘルム一世ドイツ皇帝を中心にしたドイツ陸軍首脳陣の肖像画　一葉

七八×五五・四

（昭和四・五年頃作製されたもの。）

一、松平春嶽一族肖像写真（付、帖載アルバム一冊）　一冊　四十八葉

一六・五×一一・五

①松平春嶽　一枚
②青松院（松平春嶽実母）　三枚
③松平勇子（松平春嶽夫人）　三枚
④松平婦志（松平春嶽側室）　二枚
⑤　きよ子（松平春嶽側室）　一枚
⑥松平茂昭（福井藩十七代藩主）　一枚
⑦松平慶民（松平春嶽嫡男）　三枚
⑧松平康荘（松平茂昭嫡男・越前松平家十八代）　四枚
⑨徳川家達（松平春嶽甥・徳川宗家十六代）　五枚
⑩徳川達孝（徳川家達弟・田安家七代）　一枚
⑪徳川里子（松平春嶽六女）　四枚

⑫松平節子（松平春嶽五女）　四枚
⑬松平幸子（松平茂昭夫人）　一枚
⑭松平幾子（松平茂昭継室）　一枚
⑮松平錦之丞（のちの徳川義親）　一枚
⑯松平正子（のちの毛利正子）　一枚
⑰鐐姫（田安斉匡女・松平春嶽姉）　一枚
⑱田安慶頼（田安家五代・松平春嶽弟）　三枚
⑲松平春光（松平茂昭四男）　二枚
⑳筆姫（田安斉匡女・松平春嶽妹）　一枚
㉑松平友子（松平春嶽八女・のちの三條千代子）　一枚
㉒松平節子・里子　一枚
㉓松平正子・友子　一枚
㉔不詳人物　一枚

（松平春嶽の実母、夫人、弟姉、子女等一族の幕末より明治初期の写真で、いずれも松平春嶽の旧蔵。）

一、維新諸人士肖像写真（附、皮張写真挟二冊）二冊　百五十五葉

二六×一九・五

〔皇族〕

①明治天皇　一枚
②昭憲皇太后　一枚
③英昭皇太后　一枚
④有栖川宮　一枚
⑤伏見宮　一枚
⑥元輪王寺宮　一枚
⑦東伏見宮　一枚
⑧伏見二品宮　一枚

〔公家〕

⑨岩倉具視　三枚
⑩三條実美　三枚
⑪坊城俊政　一枚
⑫東久世通禧　一枚
⑬九條道孝　一枚
⑭萬里小路博房　一枚
⑮徳大寺実則　一枚
⑯沢　宣嘉　一枚
⑰柳原前光（賞勲局総裁）　一枚
⑱近衛忠房　一枚
⑲土方久元（内務大輔）　一枚

〔大名〕

⑳島津忠義（鹿児島藩知事）　一枚
㉑細川護久　一枚
㉒細川護久夫人　一枚
㉓山内容堂　二枚
㉔蜂須賀茂韶（徳島藩知事）　二枚
㉕伊達宗城　三枚
㉖鍋島直大　三枚
㉗鍋島直正　三枚
㉘池田慶徳及び子息　一枚
㉙津軽承烈（細川護久弟）　三枚
㉚黒田従四位（筑前福岡藩主）　一枚
㉛毛利元徳　一枚
㉜松平茂昭　一枚
㉝松平茂昭夫人幸姫　一枚
㉞細川韶邦　一枚
㉟徳川慶喜　二枚
㊱秋月種樹　一枚
㊲徳川昭武（水戸藩知事）　一枚
㊳徳川慶勝（名古屋藩知事）　一枚
㊴池田章政　一枚
㊵戸田忠至　一枚
㊶徳川篤敬　一枚
㊷前田利嗣（金沢藩主）　一枚
㊸前田従四位（大聖寺藩主）　一枚
㊹松平容保　一枚
㊺松平定敬　一枚
㊻毛利敬親　一枚
㊼徳川亀之助（徳川家達）　一枚
㊽松平容大　一枚

㊾京極　某（丸亀藩主）　一枚
㊿佐竹　某　一枚
〔その他〕
(51)山縣有朋（内務卿）　二枚
(52)大久保利通　一枚
(53)伊藤博文　四枚
(54)勝　海舟　三枚
(55)黒田清隆　二枚
(56)山尾庸三（工部大輔）　二枚
(57)野津貫雄（陸軍中将）　一枚
(58)中村弘毅（元老院議官）　一枚
(59)楠本正隆　一枚
(60)土屋寅直　一枚
(61)谷　干城　一枚
(62)榎本武揚　三枚
(63)岩下方平（元老院議官）　一枚
(64)柳川春陰（前少博士）　一枚
(65)中臣呑海（中臣泰潤子息）　一枚
(66)大山　巖（陸軍卿）　一枚
(67)山田顕義（司法卿）　一枚
(68)前嶋　貢　一枚
(69)山岡鉄太郎　一枚
(70)樺山資紀　一枚
(71)福羽美静　一枚
(72)田辺良顕　一枚
(73)江藤新平　一枚
(74)赤松則良　一枚
(75)田中不二麿（参事院副議長）　一枚
(76)八田知紀　一枚
(77)福岡孝悌　一枚
(78)市川斎宮　二枚
(79)加藤弘之　一枚
(80)伊東祐麿（海軍中将）　一枚
(81)佐藤　進　一枚
(82)九鬼隆一（文部少輔）　一枚
(83)佐藤尚中　一枚
(84)廣澤直臣　一枚
(85)石黒忠悳（陸軍、軍医監）　一枚
(86)箕作麟祥　一枚
(87)大木喬任（文部卿）　一枚
(88)澁澤栄一　二枚
(89)近藤　勇　一枚

⑨⓪橋本綱常　三枚
⑨①杉孫七郎（宮内省内蔵頭）　一枚
⑨②玉野世履（大審院判事長）　一枚
⑨③小松帯刀　一枚
⑨④西郷従道　一枚
⑨⑤福田孟恪（元老院議官）　二枚
⑨⑥福沢諭吉　三枚
⑨⑦別府晋助　一枚
⑨⑧後藤象二郎　二枚
⑨⑨篠原　某　一枚
⑩⓪長岡護美（元老院議官）　二枚
⑩①池田謙斎（宮内省一等侍医）　一枚
⑩②笠原白翁　一枚
⑩③副島種臣　二枚
⑩④桐野　某　一枚

一、諸名士肖像写真　五十八葉

〔皇族〕
①明治大帝　一枚
②東伏見宮　一枚
〔公家〕
③三條実美　二枚
④岩倉具視　一枚
⑤近衛忠房　一枚
〔大名〕
⑥徳川家康　一枚
⑦徳川慶喜　一枚

⑩⑤高島五六　一枚
⑩⑥井上忠順　一枚
⑩⑦井上　馨（外務卿）　二枚
⑩⑧佐々木高行　一枚
⑩⑨木戸孝允　一枚
⑪⓪大隈重信　三枚
⑪①得野良介（印刷局長）　一枚
⑪②大久保一翁（元老院議官）　二枚
⑪③不詳　四枚

（幕末、明治初期に於ける皇族、公家大名、その他著名な人物の肖像写真類で興味深い人物の写真が少なくない。松平春嶽の旧蔵品で、それぞれに春嶽自筆の裏書がある。人名下の（　）はその裏書にある役職名等で、撮影年代を知る手掛りとなる。）

⑧加藤清正　一枚
⑨徳川家茂　一枚
⑩鍋島直正　一枚
⑪蜂須賀茂韶　一枚
⑫徳川昭武　二枚
⑬徳川慶倫　一枚
⑭徳川斎昭　一枚
⑮細川護久・長男護成　一枚
⑯細川護久・護成・嘉寿子・志津子　一枚
⑰徳川家達　一枚
⑱伊達宗城　二枚
⑲毛利元徳　一枚
⑳鍋島直正夫人筆姫（田安斎匡女）　一枚
㉑島津忠義　一枚
㉒山内容堂　一枚
㉓池田章政　一枚
㉔島津忠欽・不詳人物　一枚
㉕徳川慶喜・同昭武・佛国教師シアノアン・勝海舟・向山隼人正　一枚
㉖松平康荘ほか松平・田安等一族夫人幼児写真　十八枚
㉗豊前中津藩主奥平昌邁　一枚
（その他）
㉘伊藤博文・大隈重信・井上馨・久世喜弘・中井弘　一枚
㉙伊藤博文　一枚
㉚佐久間象山　一枚
㉛長岡　某　一枚
㉜橋本綱紀　一枚
㉝山尾庸三　一枚
㉞不詳　五枚
（松平春嶽の旧蔵品であるが、前掲のものとは違い、写真帳に整理されずにバラのまま、保存されていたものである。）

一、福井出身並びに福井縁故人物肖像写真　五十六葉

①松平康荘　一枚
②ロンドンにて撮影の松平康荘とイギリス人　一枚
③ベルリンにて撮影の松平康荘と他の留学生　一枚
④松平茂昭　四枚

⑤松平茂昭・同康荘　一枚
⑥松平茂昭夫人幸姫　三枚
⑦松平茂昭側室　小出菅子（松平康荘生母）一枚
⑧松平茂昭息女　春光（竹屋子爵）清子（鍋島直庸夫人）敬子（加藤泰通夫人）昭子（戸田康保夫人）茂時（藤波子爵）　一枚
⑨松平茂昭息女　清子・茂時・春光　一枚
⑩松平清子（松平茂昭長女）　一枚
⑪松平春光（松平茂昭次男）　一枚
⑫徳川家達　一枚
⑬徳川達孝　一枚
⑭幼時期の松平慶民・同義親　二枚
⑮松平節子（松平春嶽五女・松平康荘夫人）一枚
⑯松平里子（松平春嶽六女・徳川厚夫人）　一枚
⑰徳川純子（松平春嶽姉・柳河藩主立花寛鑑夫人）　一枚
⑱ビクトリア女王　一枚
⑲W・E・グラッドストーン代議士　一枚
⑳ソールズベリー侯爵　一枚
（⑱⑲⑳は、明治二十年、松平康荘がロンドンより、松平春嶽に呈したもの。）

㉑佐々木千尋　四枚
（明治二十二年四月、松平家が「續再夢紀事」の編纂を村田氏寿に委任した時、その助力者の一人として佐々木千尋が選ばれた。実際の編纂実務の大半は千尋の手によるものであった。）
㉒団野確爾　一枚
㉓大谷如水　一枚
㉔鈴木準道　一枚
㉕島　雪斎　二枚
㉖福井藩士井原某　一枚
㉗大野藩士内山隆佐　一枚
㉘福井藩士杉浦幸右衛門　一枚
㉙福井藩士岡田喜八郎　一枚
㉚草尾公紀乗馬姿　一枚
㉛半井仲庵　二枚
㉜笠原白翁並びに薬籠、医療器械　二枚
㉝井戸惣三郎、久世　久、横川亥之助、鈴木準道、小林直記、高村新造、有賀清門、加藤常之助、澤木禄平、渡辺　蓬、比企左門、周防謙介一枚
㉞外人教師、ワイコフ、マジェット　五枚
㉟張魯生、馮蓉塘、顧雲臺、郭少泉、秦哲明、邵

航琴、田村喜三郎　一枚
㊱村田氏寿　一枚
㊲鈴木準道、団野確爾、仙石　亮、福田源三郎、真田幸衛ほか二十六名　一枚
㊳養浩館の庭に於ける松平康荘、勝木十蔵、鈴木準道、毛受　洪等　一枚
㊴東京芝紅葉館にて、松平康荘、鈴木準道、堤正誼等を含む福井会出席者　一枚
㊵勝木十蔵、桑山十蔵、大谷如水、村田氏寿、武田正規、鈴木準道等　一枚

一、外国人肖像写真類（附・船載アルバム一冊）　八十七葉

一五・五×二二

①ドクトル・ブッケマ　一枚
②ドンダルス　一枚
③F・マイアー　一枚
④ヴァンリード　三枚
⑤ガリバルジ　一枚
⑥リーナ・ワイコッフ　一枚
⑦ウィルリー・ワイコッフ　一枚
⑧ジェーコッブ・ワイコッフ　一枚
⑨ハッチー・ワイコッフ　一枚
⑩アンニー・C・ワイコッフ　一枚
⑪M・N・ワイコッフ　二枚
⑫張斯桂字魯生　一枚
⑬エドアルド・キョソネ　一枚
⑭ヴィクトリア女王　一枚
⑮日耳曼帝国辨理公使　M・フォンブランド　一枚
⑯元帥フレデリック・カール・フォン・プルーセンほか一八七〇年代ドイツ首脳　一枚
⑰徳川慶喜・ヴィクトリア女王・ナポレオン三世等　一枚
⑱ボードイン、アルメレン　一枚
⑲大不列顛（ブリテンカ）国特命全権公使　ハリー・パークス　一枚
⑳李鴻章　一枚
㉑同治帝　一枚
㉒W・E・グリフィス　一枚
㉓G・F・ベルベッキ　一枚
㉔エヲ・ロッセ　一枚
㉕ウリース　一枚

㉖ロルド・エルギン　一枚
㉗ヴァロン・グロス　一枚
㉘英国水師堤督　一枚
㉙パークス子女　二枚
㉚ハルリー・パークス妻　一枚
㉛ビスマルク　二枚
㉜アブラハム・リンカーン　一枚
㉝G・ワシントン　一枚
㉞イタリア王　ウィクトル　一枚
㉟フランス皇子　一枚
㊱フランス帝の后　一枚
㊲フランス帝ナポレオン三世　二枚
㊳フランス帝ナポレオン一世　一枚
㊴ワルテンベルグ国王　一枚
㊵スエツル　一枚
㊶サキセン国王　一枚
㊷トルコ国王　一枚
㊸ギリシャ王　一枚
㊹ギリシャ国王の后　一枚
㊺オランダ王　一枚
㊻オランダ国王の后　一枚
㊼イスパニア国王　一枚
㊽イスパニア女王　一枚
㊾ポルトガル王　一枚
㊿デンマーク王　一枚
(51)オーステンレイキ帝　一枚
(52)オーステンレイキ帝の后　一枚
(53)オーストリア帝　一枚
(54)オーストリア帝フランシス・ジョセフ　一枚
(55)ロシア太子　一枚
(56)ロシア帝の后　一枚
(57)ロシア帝アレキサンダー二世　一枚
(58)ロシア帝　一枚
(59)ロシア帝ペートル　一枚
(60)フロイセン国王フルデリッキ　一枚
(61)フロイセン王の后　一枚
(62)プロシャ帝ウイリアム　三枚
(63)英国太子アルフレッド　三枚
(64)ヴィクトリア女王　一枚
(65)アイヌ人　二枚
(66)メッツ戦後の図　一枚
(67)ストラスブルヒ城炮撃の図　一枚

⑥⑧一八七〇年一〇月二九日「メッツ」落城の日フランス帝の親兵城外に整列して降伏する図一枚

⑥⑨一八七〇年一〇月三〇日、フランス地「レ・スールゲ」邸にて、プロシャ国「セネラル官ホンストリッキ」自己の「ジビション」隊を以て一大炮臺を陥る図　一枚

⑦⓪一八七〇年九月二日「セダン」城におけるフランス帝　一枚

⑦①一八七〇年九月一日、ドイツ兵セダン城に迫撃する図　一枚

⑦②一八七〇年八月、ドイツ兵「ワイセンブルヒ」を屠り進んで「ヨルト」村にて、フランス将マクマホンを敗走せしむる図　一枚

⑦③一八七〇年八月一八日、レソンビン村の役にドイツ兵難戦となり、プロシア国の軍事総裁モルツケ憤怒し、遂に一騎突出して労兵を鼓舞し、五百の兵を叱咤し弾丸の雨を衝き、終にフランス兵の塞塞を奪い凱陣する図　一枚

⑦④一八七〇年八月一八日、フランス兵メッツ城を出て、セダン及びベルド両城応援のため二十余万の騎兵を操出し、マルスラトール村にて、プロシア右翼惣将スタノーンメッツと交戦する図　一枚

⑦⑤一八七〇年八月一八日、クルーエロッテ村にて、プロシア王ウイルヘルム自軍を叱咤する図一枚

⑦⑥一八七〇年八月四日、プロシア国の世子フリードリッヒ・ウィルヘルム、フランス兵の右翼将マクマホンを敗走せしむる図　一枚

⑦⑦一八七〇年七月一八日、ザクセン国世子アルフレヒト、サン・プリハートにてフランス兵を敗る図　一枚

（松平春嶽旧蔵。外国の元首、及び外国著名人、春嶽の知人等の写真帳で、写真裏面には、当人が署名を入れ、春嶽に献呈する旨を注記したものもある。春嶽の外国人との交際の広さが知られる。）

什器の部

二、書　蹟

二、書　蹟

一、「元気」二大字の扁額　一額
松平春嶽　紙本墨書　四四・五×九九・七
（天保九年、松平春嶽十一歳の書。）

一、「万事足」「鶴年亀」の書幅　二幅
松平春嶽　紙本墨書　一三〇×三〇
（天保九年、松平春嶽十一歳の書。）

一、「南山寿」「思無邪」の書幅　二幅
松平春嶽　紙本墨書　一三〇×三〇
（天保十年、松平春嶽十二歳の書。）

一、「日慎一日」「如南山之寿」「思無邪」「仁者寿」の書幅　四幅
松平春嶽　紙本墨書　一二二×三〇
（天保十一年、松平春嶽十三歳の書。）

一、「元気」二大字の書幅　一幅
松平春嶽　紙本墨書　八四×三一
（天保十一年、松平春嶽十三歳の書。）

一、「惟知不自常」の書幅　一幅
松平春嶽　紙本墨書　一三四×二九・五
（年代不詳。松平春嶽十代の書。）

一、「元気」二大字の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　六七・五×三〇
（松平春嶽越前少将時代、十二、三歳頃の書。）

一、「万事足」「靖共爾位」「長安一片月」「居処恭」の書幅　四幅
松平春嶽　紙本墨書　一三〇×三〇
（松平春嶽越前少将時代、十二、三歳頃の書。）

一、「一元施大化」の書幅　二幅
松平春嶽　紙本墨書　一三四×三〇
（弘化四年一月、松本春嶽二十歳の書。）

一、「広大無私覆」の書幅　一幅
松平春嶽　紙本墨書　一三五×二九・五
（嘉永元年、松平春嶽二十一歳の書。）

一、「天地交而万物通」の書幅　一幅
松平春嶽　紙本墨書　一三六×三一・七
（嘉永二年、松平春嶽二十二歳の書。）

一、「敏徳」二大字の書幅　一幅
松平春嶽　絹本墨書　一二九・五×五七
（嘉永六年二月、松平春嶽二十六歳の書。）

一、「敏徳」二大字の書幅　一幅
松平春嶽　絹本墨書　一三〇×五七
（年代不詳。前提「敏徳」の書幅と同時期のものと思われる。）

一、「夢遶辺城月」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一三五×二九・五
（年代不詳。松平春嶽二十代の書。）

一、「任重道遠」の書幅　一幅
松平春嶽　紙本墨書　一三三×三〇
（年代不詳。松平春嶽二十代の書。）

一、「體元者人君之職」の書幅　一幅
松平春嶽　紙本墨書　一三六×二九
（安政二年正月、松平春嶽二十八歳の書。）

一、「天地感而万物化生」の書幅　一幅
松平春嶽　紙本墨書　一三四・五×二八・八
（安政四年正月、松平春嶽三十歳の書。）

一、「蓬生麻中不扶而直」の書幅　一幅
松平春嶽　紙本墨書　一三一・五×六〇・五
（年代不詳。松平春嶽青年時代の書。）

一、松平春嶽揮毫漢詩類　百枚
松平春嶽　紙本墨書　二九・二×二七
（松平春嶽青年期の書で、色紙型の和紙に杜甫・王叔承・王旭等の詩を写している。越前産和紙、飛雲で作った封筒に収められている。）

一、「大器晩成」の書幅　一幅
松平春嶽　絹本墨書　一三四×五七
（年代不詳。松平春嶽青年期の書。）

一、「乾坤再造朗春曦云々」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一三八×六二

（明治二年正月、松平春嶽四十二歳の書で、自作の七言絶句である。）

一、「皇政凞々與歳云々」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一四〇×六〇

（明治五年正月、松平春嶽四十五歳の書で、自作の七言絶句である。）

一、「皇政凞々與歳云々」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一四〇×六〇

（前提書幅と同文で、同じ明治五年正月の試筆である。）

一、「春雨春風云々」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一三六×六六・五

（明治十五年前後の書で、自作の七言絶句である。）

一、「萬国移風兆人承慶」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一二五×五五

（明治七年元旦、松平春嶽四十七歳の書。）

一、「天地無内外万邦皆弟兄云々」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一二七×五八・三

、（礫川釣史永の署名から、小石川邸に移居した明治十年以降の書であることが知られる。）

一、「審慎学舎」の扁額　一額

松平春嶽　紙本墨書　四五×一五七・五

（明治十四年三月の書で、もとはどこかの学塾に掲げるためのものであったかと思われるが、詳細は不明

である。）

一、「鶴舞千年樹亀遊萬歳池」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一三一×六一

（明治十七年正月、松平春嶽五十七歳の書。）

一、「元旦又如天地初」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一三五×六一

（明治十八年正月、松平春嶽五十八歳の書。）

一、「元旦又如天地初」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一三五×六一

（明治十九年正月、松平春嶽五十九歳の書。）

一、松平慶民所用習字手本　七折

松平春嶽　紙本墨書　三八×三三

奥書

「依父慶永七歳習字之例、明治二十一年三月二十七日、為慶民。正二位源慶永書（花押）」

（松平春嶽が、明治二十年より二十二年にかけ、五から七歳頃の嫡男慶民に書きあたえた習字手本で、奉書を縦四ツ折にして用いてある。）

一、「静以修身仰以養徳」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一三〇・五×一五・三

（松平春嶽書の聯で、年代は不明である。）

一、「東風一路弄新晴云々」の書幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一三二×四五

（年代不詳。松平春嶽自作の七絶。）

一、「とりよらふ　ふしの高ねの云々」の和歌並富士の画の幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　八〇×五九・三

「とりよらふ　ふしの高ねの雪よりも

高きは君か恵也けり　春嶽画併歌」

（年代不詳。「とりよらふ」は「取具ふ」のことで、備わり整うの意である。松平春嶽の画は極めて稀であり、これはその数少ない一点である。）

一、「天の戸のおし明かたの云々」の和歌幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一三六×六八

「天の戸のおし明かたののどかにて

御代の千代田の春かとそおもふ　慶永」

一、東照宮遺訓の幅　一幅

松平春嶽　紙本墨書　一四〇×六一・五

（人の一生は重荷を負て云々からはじまる著名な徳川家康の遺訓を写したもの。年代不詳。）

一、「裁錦楼中別宇寰云々」の書巻軸　一巻

松平春嶽　紙本墨書　三二×三三四

一、水態古青楼記石版刷の扇子　一握

松平春嶽書・五嶽楼作製　全長二七

（松平春嶽が明治十一年五月揮毫した扇面を、後年春嶽が命名した福井の料亭五嶽楼で複製配布したものである。）

一、松平春嶽幼・少・青年時代の書　二十六枚

松平春嶽　紙本・絹本墨書

①天地交而萬物通也　一三七×三三　五枚
②元気　三一×五三　一枚
③如南山之寿（絹本）　六五×一九・五　一枚
④如南山之寿　六五×一九・五　一枚
⑤躍如　九一×三一・五　一枚
⑥衣錦尚絅（絹本）　一三五×三〇　一枚
⑦恭寛信敏恵（絹本）　一四六×三〇　一枚
⑧珠落澤自媚云々（絹本）　一〇二×三二　一枚
⑨美言不文　一三五×三一　一枚
⑩行無内外　一三五×三一　一枚
⑪雲従龍　一三五×三一　一枚
⑫執中　三七・五×六一・五　一枚
⑬花竹秀　一三七×三一　一枚
⑭風従虎　一三七×三一　一枚
⑮如松柏之茂　一三七×三一　一枚
⑯飽看水面十分春　一三六×三〇　一枚
⑰泰山巌々　一三六×三〇　一枚
⑱梅花點水云々　一三六×三〇　一枚
⑲修竹無清寒　一三六×三〇　一枚
⑳郁々千哉　一三六×三〇　一枚
㉑鶯弄機梭織新柳　一三六×三〇　一枚
㉒春花平蕪　一三六×三〇　一枚

一、松平春嶽少年期手習の書　五枚

松平春嶽　紙本墨書　四八×三四・五

（五枚の内一枚に弘化二年の年紀がある。）

一、新年歌初めの和歌並詩文の書　十三枚

松平春嶽　紙本墨書　四一×六六～三二×四五

（松平春嶽青・壮年期の書で、檀紙九枚奉書四枚からなっている。）

一、和歌等手習の書　十三枚

松平春嶽　紙本墨書　三四×四九

（松平春嶽が少年期、手習に使用した奉書紙で、一枚の紙に二度、三度と重ね書きをしている。）

一、「養賢堂」の扁額　一額

山内容堂　紙本墨書　三八×九五・三

（安政五年春、山内容堂が松平春嶽に贈った書で、「鯨海酔侯」の署名がある。）

一、松平春嶽次女貞姫供養の幅　三幅

東西本願寺等門主　紙本墨書　一八〇×五一・八、一五六・六×五四・三、一五九・五×四六・九

（慶応二年七月、僅か一歳の次女貞姫を失った松平春嶽が、東・西本願寺、興正寺、仁和寺、知恩院等の門主外多数の佛道奉仕者に供養の書を依頼し、貞姫にあわせて長女安姫の霊を弔ったもの。）

一、「清間無事云々」の書　一幅

広部鳥道　紙本墨書　一〇一×四三

（明治十一年正月の書。広部鳥道は福井藩士、名は良知、渕黙・鳥道と号した。横井小楠が福井へ来遊した折り、互いに時務を論じ夜を徹したという。晩年、京都に出て真宗大谷派大学林で漢籍を教授した。）

一、中根雪江を送る文　一幅

半井保　紙本墨書　二五・七×五六・三

（福井藩医半井仲庵が中根雪江に贈った書で、扇面型の料紙が用いられている。半井仲庵は、文化九年福井藩医の家に生まれ、名は保、字は伯和、通称元沖、仲庵といい南陽、晩香などと号している。初め漢方を学んだが、四十一歳の時、はじめて和蘭文典を読み、扶氏経験遺訓に従い、蘭方医術を施した。一般にまだ蘭方が普及していない中で、その拡張につとめ、福井藩における蘭方の興隆は、一に仲庵の力によるところが多い。明治四年、六十歳で歿す。）

一、明暮庵筆、墨流し短冊並福井俳壇由緒書　二点

明暮庵籬翠　紙本墨書　三一×四七・三

（松尾芭蕉―各務支考…安田以哉坊と受継がれた俳統獅子林分社は、やがて福井の時雨庵祐阿に伝えられ

て、南越獅子分社が誕生した。寛政期の祐阿以降、その福井の俳壇は代々の宗匠に継承されて明治に至ったが、明暮庵籬翠は明治期の福井の俳人である。）

一、「相生の松をためしに云々」の和歌短冊　一枚

南部広矛　絹本墨書　三六・五×六・一

（明治四十四年四月、松平春嶽嫡男慶民の結婚を祝して贈られた和歌短冊。）

一、「待郭公」の和歌短冊　一枚

内田　庸　紙本墨書　三六・二×五・八

一、「蔭たかき松の秀枝に云々」の和歌打雲短冊　一枚

井手今滋　紙本墨書　三六・三×六・一

「蔭たかき松の秀枝に雙棲む
はるのちきりは八千代なるらん　今滋」

（橘　曙覧の嗣子井手今滋が、明治四十四年四月、松平春嶽の嫡男慶民の結婚に際して贈った慶祝の和歌である。）

一、「蜂腰」の和歌並詞書　一枚

井手今滋　紙本墨書　二八・二×四〇

（明治四十四年五月、松平慶民婚儀後の旧臣招宴に際し、井手今滋が慶民の叙爵と婚儀とを慶祝して呈したもの。）

一、「萬物頼洪恩」の扁額　一額

松平慶民　紙本墨書　四八・五×一五四・五

（松平春嶽嫡男慶民の書。昭和十五年前後、宮内省式部長官時代、揮毫の依頼を受け執筆した残余のものである。）

一、松平勇子幼時手習の書　四枚

松平勇子　紙本墨書　四〇×五五

（松平春嶽夫人勇子の幼年期の書で、「柳無気力」「池有波文」「條先動」「書画開」の語句が書かれている。）

一、「秋思歌」の書幅　一幅

松平節子（とき子）　紙本墨書　三七×五一・五

（越前松平家十八代当主松平康荘の夫人で、松平春嶽の五女節子が、父の長歌「秋思歌」を筆写したもの。）

一、「一日謁公云々」の書巻軸　一巻

鴻　雪爪　紙本墨書　中二一・五

（福井初代藩主結城秀康の菩提寺考顕寺住持として招かれた鴻雪爪が、後年松平春嶽との親交の様を叙述した一文である。鴻雪爪は、文化十一年備後因島に生まれ、六歳で出家、弘化三年大垣藩戸田家の菩提寺全昌寺の住職となる。安政五年、松平春嶽の召しに応じて、福井の考顕寺の住職となる。考顕寺在住中は、横井小楠に協力して藩士の薫陶に努力し、慶応三年彦根清涼寺の住職となって移住した。維新後は、松平春嶽の推挙で新政府のかかえた宗教問題の解決をはかるため召出され、還俗して大教院々長などに任じて国政に参与、明治三十七年九十一歳で歿した。）

一、越前俳人遺墨類　十六点

三上庵翠竹洞外　紙本墨書

（江戸期、福井俳壇で活躍した俳人の遺墨類。）

一、「花盛之時節御座候云々」の折本　一帖

紙本墨書　四八・五×一五・二（往来物）

一、「應命恭詠梧桐」の詩外　三点

加賀成昂　紙本墨書　一五・三×三〇・七外

（松平春嶽の近侍の臣、加賀成昂の遺墨である。）

一、「含雪軒」の扁額　一額

近衛忠凞　絹本墨書　四三・九×一四八・八

（明治十年七月の書。）

一、「立誠而居敬」の扁額　一額

井上　馨　絹本墨書　五三・五×一一九・七

一、「和」大字の扁額　一額

八田善之進　紙本墨書　四六・八×八七・八

（丁酉春　龍山の署名がある。八田善之進は明治十五年福井に生まれ、医学を修める。大正八年宮内省に入り侍医を拝命、同十一年以降は侍医頭となって常時側近に奉仕し、二十一年退官した。その後、一時枢密顧問官に任ぜられ、日大顧問、同名誉教授、社会保険中央病院々長などとして最後まで第一線で活躍した。昭和三十九年、八十二歳で歿す。）

一、「寸馬分人往又遠云々」の七言絶句の書幅　一幅

蒔田雲処　紙本墨書　一二四・〇×五五・五

什器の部

三、絵　画

三、絵　画

一、山水画並詩讃の幅　一幅

吉嗣拝山　絹本墨書　一五三×五〇・五

松平春嶽筆箱表・裏書

「吉嗣拝山詩画之軸　東久世通禧公所贈。春岳玩賞。

黒田長伝書翰　拝山履歴添。明治十六年三月。」

吉嗣拝山履歴書

「福岡県筑前国御笠郡太宰府村ノ人

吉嗣達太郎 初達之進

号拝山一ノ号蘓道人

父ハ梅儕

梅儕ノ師ハ支邦人稼圃、拝山モ又其流ヲ学。後筑前芦屋ノ産、西京之寓耕石ニ就テ画ヲ学ヒ、東京ニテ晴湖ト友タリ。明治二年倉敷県公用人トシテ出京ス。明治三年太政官奉務、同年負傷右臂ヲ折リ、左手ヲ以テ書画ヲ能ス。今宰府ニ居住ス。明治九年ノ此、清国ニ遊学ス。」

（松平春嶽が東久世通禧より贈られ、のち黒田長伝に画家の履歴を問合せて愛蔵したものである。）

一、「烟霞雅玩」の折本　五帖

沢　宣嘉外　紙本淡彩　一二×九（一冊）、一九・五×一〇・五（四冊）

（明治五年前後、松平春嶽が三條実美、沢宣嘉、徳川慶勝、松平確堂、山内容堂、伊達宗城等の知名、知友の人々に書画の揮毫を乞うて作成したものである。）

一、書画扇面合装の幅　一幅

馬鎮・陳徳・借閑　紙本墨書　一〇八・五×六一・五

（扇面に馬鎮・借閑が山水を、陳徳が詩を揮毫したものを三段に表具したもので、松平春嶽の愛蔵品である。）

一、夏景山水の画幅　一幅

川地柯亭　絹本淡彩　五一・五×八八

（川地柯亭は福井藩士、札所奉行、御先物頭等を歴任する傍、弓馬、鎗砲、詩歌に通じ、画を谷文晁等に学んだ。松平春嶽の知遇厚く、明治五年十月、九十二歳で歿す。）

一、花鳥・風景画の衝立　一基

越前守岸岱　絹本着色　六七×七六

（岸駒の嗣子岸岱の梅に鴛鴦・富士川眺望の二枚の画を衝立表裏にはめ込んだもので、松平春嶽が身近に使用したものである。）

一、蝶々躍の図並和歌讃の幅　一幅

東鶴画　半月讃　紙本墨書　一三三×三〇

（天保十年春、京都の老若男女が、豊年躍、蝶々躍と称してうかれ出し、街路を躍りまわった様を描いたもののようである。筆者も不詳であるが、讃を付した半月は、署名の上に「角鹿」とあり、敦賀在住の文人と思われる。）

一、山田長政日本帰航図　一枚

紙本木版　五六・五×七三・五

松平春嶽端書

「山田仁左衛門、シャムロ国より日本へ送ルの図。明治十七年十二月十一日東京地学協会より廻ル。」

（山田長政が軍船を指揮して航海中の有様を写したもので、松平春嶽も会員であった東京の地学協会より

受贈のものである。）

一、「再改横浜風景」木版画の巻軸　一巻

芝神明町丸屋甚八版　紙本木版　三六・五×一四八・五

（明治初期の横浜風景を写したもので、多色刷、錦絵風に刷りあがっている。）

一、狸戯画の巻軸　一巻

紙本淡彩　二六・六×二二〇

奥書

「偶得二狸毛筆一試写レ之。運筆拙而無二変化一。識者莫レ咎不レ似二其形一」

（筆者不詳。投網をうつ狸、盆躍に興ずる狸、茶の湯をする狸など六態の狸を戯画にしたものである。）

一、犬並養老瀧の水彩画　二面

加賀野井成是（養老瀧）紙本水彩　長径五一・八、四六×三四・八

（松平春嶽旧蔵の水彩画で、外国人絵師の手になる楕円形画面の犬の図、明治九年八月筆、養老瀧図の二点がある。）

一、サルブリックン並メッツの戦闘図　二面

紙本印刷　五五・八×七〇・六

（プロシャのフレデリック、チャールス皇子の指揮下に、千八百七十年八月六日、同三十一日の両日、サルブリックン、メッツ地域で展開された戦闘図で、松平春嶽の旧蔵品である。）

一、舶載絵画類　一三枚

（松平春嶽愛蔵の外国絵画で、女神像、海戦図、欧州牧童の図、欧州中世家族団欒の図などがある。）

一、山水画折本　一帖

紙本淡彩　一七・五×一二・三

（筆者不詳。「緑陰観瀑」等、九景の山水画が描かれている。）

什器の部

四、拝領品

六、日常手沢品

四、拝領品

一、天賜ハンカチーフ外　三点

三五×三七　桐箱入

（松平春嶽が拝領のものであるが、その年代は不詳である。麻地に鳳凰や桐唐草文を刺繍した白色ハンカチーフの外、白と紫の布帛二点が、桐箱に収められている。猶、桐箱蓋裏には、金泥で和歌が記されている。）

一、天賜玩具小簞笥　一点

高二二×巾一九・八×奥行一〇・五

（明治二十三年頃、初代春嶽公記念文庫主松平慶民が、東宮殿下、後の大正天皇の御相手役として参殿していた当時、殿下から拝領の玩具である。）

六、日常手沢品

一、墨残片　一点

高三・五×巾五・五×厚一・六

（旧福井藩士蘆田碩が、明治三年三月六日、松平春嶽手沢品として拝領したもので、大正六年三月、本文庫に寄贈された。）

什器の部

七、諸道具

七、諸道具

一、竹置花生　一点

田安齋匡作　竹製　高三六・三×径一四

（松平春嶽実父田安徳川齋匡の自作品で、田安家旧臣飯野既明が春嶽に献呈したもの。）

一、青松院所用香木入経木箱　一点

経木箱寸法　二二・四×八・一×高五・七

（青松院は松平春嶽生母、田安齋匡側室である。薄雲・ちとせ・神垣等のたとう包の各種香木が収められ、箱表書に「青松院殿御道具　四品之内　香木」とある。）

一、梅花模様紫檀棚　一基

紫檀　高六八・七×巾七四・五×奥行三三

（松平春嶽所用の紫檀製棚で、各引出、扉等の前面に梅花模様が浮彫りにされている。）

一、欅製小簞笥　一基

高六八・五×巾六八・三×奥行三〇

（松平春嶽所用の整理用小簞笥で、上段の引戸には、牡丹と蝶の絵が描かれ「丁卯臘月写　木公」の署名がある。この場合、丁卯は明治三年と考えられる。）

一、文机　一基

高三〇×巾六八・三×奥行三六

（松平春嶽の常用文机で、質素な日常を偲ばせる品である。）

一、茶室襖用曳手　八点

浅井外巻作　木彫　一二・六×六・三

（明治十年六月、旧藩士浅井外巻が自作して松平春嶽に呈したもの。春嶽はこれを目白邸の茶室襖に用い、愛用した。作者の浅井外巻は彫刻をよくし、公務の余暇に製作にはげんだ。明治十年八月、三十三才で歿す。）

一、鯨骨製乗馬用鞭　一本

総長九一

（松平春嶽所用の鯨骨製鞭で、牡丹唐草文様を線刻した純銀製金具が三箇所に付属している。猶、握り部分の金具先端は、呼子となっている。）

一、火事装束一式　五点

①葵紋付紫地羅紗製火事羽織並胸当　二点

②兜頭巾（木製黒漆塗葵紋付兜並葵紋付白・黒・黄地羅紗製三重頭巾）　二点

③野　袴　一点

（松平春嶽着用の品で、配色が巧みである。頭巾や胸当、羽織袖口等は金糸で縁取りし、止金には銀を用い、兜八幡座には葵葉形の金具を配するなど、豪華な装束である。）

一、葵紋付黄地羅紗製火事羽織並胸当　二点

着丈九五　（松平春嶽着用。）

一、葵紋付夏用火事羽織　一点

着丈八四　（松平春嶽着用。葵紋付溜色紗地。）

一、火事装束用兜頭巾　二点

①松平春嶽着用。葵紋付緋色地羅紗製二重。総丈八三。

②松平春嶽着用。葵紋付白地羅紗製。総丈九〇。

一、葵紋付嘉珍長上下　一領

麻製　肩衣背丈七〇

（松平春嶽着用。嘉珍（かちん）は搗染（かちぞめ）の意か。）

一、鉄群青色平紬地花菱亀甲文飛鶴に松竹梅模様腰巻　一領

裄六二・五　（松平春嶽室勇子所用。）

一、緑楊柳変地御所車に草花流水模様小袖　一領

裄六四　（松平春嶽室勇子所用。）

一、松平慶民幼時着用の衣装　六点

①陣羽織　②鎧直垂　③野袴　二点　④臑当　一足

（松平春嶽嫡男慶民の幼時着用のもので、袴の内一点が「袴の祝」に用いられたものであることが知られるほかは、使用時期、由緒等不明である。）

一、鷺図並詩讃の長袱紗　一枚

絹（表地紺・裏地白）　八四×一五四

（裏地に文久三年五月十八日付の松平春嶽自筆の詩讃と、浅瀬に餌をあさる白鷺の図が書かれている。）

一、刺繍絹袱紗　六枚

①赤地富士に昇龍模様　五〇×四四

②白地若松に手箱模様　一二四×一二六

③萌葱地鯉に水草模様　八七・五×八四・五

④赤地唐草に葵紋模様　九七×一〇〇

⑤赤地梅に団扇模様　九三×九一

⑥赤地岩竹に鷹模様　九二×九一

一、革張ケース付舶来枕時計　一個

八・二×九・四×高十四・四（時計本体）

（松平春嶽所用のもので、時針の判別出来ない夜間に、大体の時刻を点鐘により知ることが出来る装置が組込まれている。）

一、**硝子燈火時計残部品　三点**

高一六・三。基台径一〇・二。

（松平春嶽所用。破損して時計機械部分と基台部分しか残されていないが、もとは卓上に置いて、燈火としても使用できるように装置されていたもの。）

一、**五七桐紋付黒地絽肩衣　一着**

肩巾　六八・五

（橋本左内所用。安政五年前後に使用されたものと思われ、橋本家から本文庫に寄贈された。老化が激しく手も触れられぬ状態になったため、家紋部分を主体に額装として保存されている。）

一、**蓮華模様浮彫大硯　一個**

二二・八×一四×高四・一　（蓋付）

（橋本左内常用のもので、橋本家より本文庫に移管された。）

一、**元旦若水御用手拭　四枚**

麻製　三五×一〇三

（越前松平家にて使用のもので、白地に葵紋を染付けたものと、藍地に葵紋を染抜いたものとの二種がある。）

一、**松平婦志手沢遺品類　一括一箱**

箱寸法　三一・六×三一・六×高二一

（松平婦志は旧姓糟谷氏、松平春嶽の側室で、松平慶民、徳川義親、松平節子、徳川里子、毛利正子、三

條千代子等二男四女の実母である。本遺品は明治末期より大正十四年歿時まで使用の手沢品で、硯箱、文箱、煎茶器、漆塗小物入等が含まれている。）

一、松平慶民所用学用品（竹模様文庫収納）　一括一箱

文庫寸法　六〇・七×四三・三×高一四・五

（松平春嶽嫡男、初代春嶽公記念文庫主の松平慶民が明治二十年代、小・中学生時代の教科書、ノート類等で、黒漆塗に金泥で竹模様を描いた文庫に収められている。）

一、黒漆塗九曜紋付文庫　一箱

六〇・七×四七×高一七・五

（熊本藩主細川家より入嫁の松平春嶽夫人勇子所持のもので、黒漆に金泥で細川家の九曜の定紋が置かれている。猶、内張りには、越前産の打雲紙が用いられている。）

一、葵紋付行楽亭釘隠 並 葵紋付表紙角金　二点

銅製　一二・五×一七

（松平春嶽所蔵。藩邸内で用いられたと思われる釘隠と、葵紋透彫に唐草模様を線刻した折本表紙などに使用される角金である。）

一、三国焼酒盃　一個

松平春嶽　径七・高四

箱裏書

「明治六年七月、正二位様福井へ御出ノ節、於三国港御手造」

（松平春嶽が、三国を訪ねた際の自製で、盃内側になすびの絵を描いてある。）

一、桑製寿盃　一個

桑製　径一〇・八　高三・五

箱書

「(表)明治十七年十一月十七日、於上野松源樓従三位松平確堂卿七十ノ賀宴被開見贈候　桑盃　一。

(裏)　正二位松平慶永謹記。」

(松平確堂は第十一代将軍家齊の子として文化十一年に生まれ、名は齊民、津山藩主となる。明治二十四年、七十八歳で歿す。本盃には、内側に金泥で寿、裏には、七十翁の文字と「確堂」の印がある。)

一、磁製賀盃　一個

径七・二　高三・四

箱裏書

「明治二十二年五月、伊達宗紀殿百歳ノ賀盃　寿」

(旧宇和島藩主伊達宗紀の百歳の賀盃である。宗紀の自筆で、盃内面に「寿」同側面に「己丑歳百嗄」の文字がある。)

一、岡田啓介内閣総理大臣就任記念盃　一個

木製漆塗　径一〇　高三・二

(岡田啓介が昭和九年七月八日、総理大臣に就任した際の記念盃である。)

一、新田義貞六百年大祭記念盃　一個

銀製　径九　高三・二

(昭和十三年五月二十二日、福井藤島神社で新田義貞六百年祭が施行された際の記念盃で、内側に丸に一文字の新田家定紋が付されている。)

一、松平試農場五十周年記念盃　一個

木製漆塗　径八・八　高三・二

(福井県金津町にあった松平試農場が、昭和十八年十月、五十周年を迎えたのを記念した木盃。)

一、踏馬御免の木札　一個

木製朱漆塗　八×一三×厚〇・八

（詳しい用途は不明であるが、木札表裏に「踏馬」「御免」の四文字を彫りこみ、釣下げ用の輪金具が四ケ所に付けられている。）

一、福井城石垣中より発見の金属板　一点

鉄製板　一一・五×一三・五×厚〇・五

（大正五、六年頃、福井城石垣中より発見されたもので、用途は全く不明である。楕円形の鉄板に十二個の円形穴があけられている。）

一、葵紋付鬼瓦　一個

高三〇　巾五二・五

（旧江戸城内の櫓上に使用されていたもので、裏面に「六撹」と刻まれている。昭和初期、廃棄処分に際して、宮内省に奉職中の松平慶民が譲渡保存したものである。）

一、伝新田義貞所用兜置物　一個

陶製彩色　長径一二・五　高八

（昭和十三年五月、新田義貞六百年大祭を記念し、藤島神社が関係者に贈ったもので、現重文の社宝兜鉢を模造したもの。）

一、葵葉形轡　一個

鉄製銀象眼　金長四五

（鉄製葵葉形の轡に黒漆を施し、唐草模様を銀象眼してある。由緒は不明であるが、福井藩主使用のものである。）

一、白楊柳変地紗綾形文藤桜牧丹模様小袖　一領

裄六二。（松平春嶽室勇子所用。畳紙に嘉永四年の墨書がある。）

一、物桐刀剣簞笥　一棹

五六×一一六×高八八　（四段引出）

一、物桐衣装簞笥　二棹

四三×九五・三×高一一二（四段）、四二・二×九四×高一一八（五段）

一、春嶽公記念文庫カード類整理簞笥（洋式）　一基

四五・三×八三・七×高一九二・五

一、春嶽公記念文庫主木印並記念文庫ゴム印　二顆

三・三×三・三、八・八×二・四

文書の部

一、記　録

一、記　録

一、農業略記　一冊

松平春嶽　紙本墨書　九・七×六・八

奥書「天保十三壬寅年二月廿二日　春嶽書（印）」

（松平春嶽が十五歳の時手書したもので、「一春の土用十日前此より田方荒ヲ起し。但一人ニ而一日一反斗。」に始り「一次ニ俵ニ致す。是〻とふミにかけし上米をますニてはかり、一俵たけにいたしつつむ也。俵ハ藁ニ而あむ也。」に終わる稲作の概略を十八箇條にわたり記録したもの。書中、家臣の加筆や付箋の箇所が多い。）

一、随意筆記　一綴

松平春嶽　紙本墨書　二二×一四・五

表紙上書「今便書状無レ之候。後便可レ遣候。中根雪江老。春嶽。」

（松平春嶽が書状のかわりとして、中根雪江に送ったもので、内容は妙々散人作「狐人ヲ化スノ説」と題する教訓である。妙々散人が誰であるかは不明であるが、明治以降の筆写と思われる。）

一、景岳先生雑記

橋本左内　紙本墨書　二二×一五・四

（橋本左内が藩医時代に筆記したものと思われ、調薬處方の外、為政大要、明道館職制、回天詩史の一部等が記されている。本来無表題で、後人による仮題である。橋本景岳全集　上・下巻に所収。）

一、故従一位勲一等松平慶永公略伝　一巻

紙本活版（新聞切抜）　一一・五×四三六

（松平春嶽歿後二日目の明治二十三年六月四日より連載された新聞記事を小巻軸に仕立てたもので、六回にわたる春嶽の略歴と三回にわけて報道された「春嶽公の逸事」とが収められている。）

一、童蒙の道しるべ額面写　一葉

由利公正　紙本墨書　二六×八九

（由利公正伝付録に収められている公正の随筆「真心を以て事を為すべし」と同文のもので、三国町金鳳寺に所蔵する公正自筆の額面の写しである。明治二十五年春の染筆で、大正年間に至りこの写しが金鳳寺より春嶽公記念文庫に収められた。）

一、中根雪江墓碑拓本二曲屏風　一点

松平春嶽　紙本石摺　一五一・七×七六×二曲

（明治十年十月三日、中根雪江が歿した際、松平春嶽は将来自分の葬らるべき松平家墓所内に雪江の墓のあることを希望し、同年十二月自ら墓標と小伝を揮毫し、品川海晏寺の越前松平家墓域内に建立した。本拓本は大正七年頃、当時の春嶽公記念文庫職員が採拓したものである。）

一、中根雪江碑碑文　一葉

勝　海舟　紙本活版　二八×三七・七

（福井佐佳枝廼社境内に建立の中根雪江顕彰碑の碑文である。篆額は松平春嶽筆、碑文は明治二十五年六月に勝海舟が撰したものである。）

一、橋本景岳之碑拓本（縮小版）　一額

景岳会　紙本石版　五九×三一・五

（東京南千住回向院の橋本左内墓側に明治十八年十一月、景岳会により建立された顕彰碑の拓本を、縮小石版摺としたもの。）

一、紀恩碑拓本の幅　一幅

紙本石摺　一九九・五×七七

（今立郡北新庄村、現武生市北町は、水利が天領を通過しているので古来紛争が絶えず、往々罪人を出す

ことがあった。明治元年、時の郡奉行鈴木準道、用水掛徳山明定の二人は実地を調査し、藩主松平茂昭も自ら巡視して水利を便にし、罪囚を赦したことを恩徳とした村民は、藩主と二臣の木像を造って小祠に祀り、三社権現と称し崇敬した。更に明治四十五年には、永くこの功績を後世に伝えるため、紀恩碑が建立された。本拓本は庶民の手になる生祠の一例として興味深い。）

一、殿様祭之碑拓本の幅　一幅

紙本石摺　一六一×六三

（元文、寛政両度の大水害に田畑が荒廃して以来、窮乏の極に達していた浄法寺村栃原の農民は、明治三年年貢免除の訴願を起こし、三岡八郎後の由利公正の尽力により、藩主松平茂昭から年貢米貢銀等一切取捨の公状を得た。この裁許に感激した村民は、毎年四月七日一村相会して、この旧恩を語合い感謝する日と決め、殿様祭の日と称することとなった。本拓本の碑は、この行事の由緒を後世に伝えるため、大正八年十二月、芳賀矢一博士の撰文により建立されたものである。）

一、役者見立當世評判記外　六葉

紙本墨書・紙本木版　二三・五×三一・三外

①役者見立當世評判記外　二葉

（「何をさせてもきらいなく、能やりますが田舎むきだ　江川太郎左衛門　関三十郎　故人になっても誰壱人、をしいといひてのない　皆様御存の御方　尾上松助（蒸汽船カ）」等、役者の評判に幕末の有名人への諷刺をひっかけた「役者見立當世評判記」の外、「乍亀末、上喜撰四艘御霊前へ」と題する和歌、「はやりのけん」「御場臺之詩」等、いずれも当時流行の世相諷刺の詩文を記録してある。墨書。）

②野暮體之誌　一葉

（十行に並べられた百四十の漢字を不規則に引かれた朱線に従って読んで行く判じ物の一種で、内容は黒船の来航に右往左往する時世を諷刺したものである。墨書。）

③海陸御固御役人附　二葉

（嘉永六年、米使ペリー浦賀来航に際し、日本側がとった海岸警備状況を報知したもの。木版。）

④天保十五年甲辰新略暦　一葉（木版。）

一、越前国主代々　一巻

紙本墨書　一五・四×一九三・三

（恵美押勝、坂上刈田麿等に始まり、越前の国司や押領使、守護の斯波氏、更に朝倉、柴田、丹羽、堀等戦国期の領主、結城秀康以後の松平家歴代などの人名を時代順に列記してある。筆記年代、筆者等不明であるが、十三代藩主松平治好で終っている所から、大体の年代が推定出来る。）

一、浦賀港異国船渡来記　一冊

長州藩　紙本墨書　二四・七×一七

（嘉永六年、米使ペリー来航に際し、武州大森の警備に当った長州藩の記録で、「相州浦賀湊ニ異国船渡来固御人数被差出候一件」との内題がある。「取沙汰聞繕之覚」「奥平数馬日記」「長州家武州大森陳屋図」等の記録、絵図類が収められている。）

一、魯西亜船渡航記録　一冊

紙本墨書　二三・二×一六・一

（寛政四年九月我国に来航し、翌五年六月帰国したラックスマンを長とするロシア船に関する記録である。幕閣への報告書やそれに対する示達、ロシア皇帝の書翰をはじめ、この時送り届けられた日本人漂流民のことを書いた「漂流人物語」等が収録されている。）

一、見聞記　一冊

紙本墨書　二二・九×一五・七

（福井藩士中根某の筆になる逸話集。「勤番組春のたはむれ」「沢庵和尚壁書の事」「盲人かたりの事」「強気勇

猛自然の事」「金沢敵討の次第」等の話が収められている。）

一、京都見聞実録　一冊

馬場文英（磵宗四郎師古写）　紙本墨書　二四×一七・一

（一名「初秋の夢」。元治元年中、京都にあった肥後藩士馬場文英の見聞記で、禁門の変の模様を中心に記録したもの。）

一、互奏断　巻之一　一冊

緩怠子　紙本墨書　二四・二×一六・九

（序文の最後に「寓言八百年かのへ辰の如月　筭用外子発」とあって、安政三年の執筆になるものと思われる。詳細は不明であるが、時世に悲憤慷慨した筆者が、戯言に託して世事を痛烈に批判した内容である。）

一、慶永公名臣献言録　一冊

紙本墨書　二三・三×一六・四

（天保、弘化年中、松平春嶽が十代の間に、家臣達が上書した献言類を中心に、明治二十五年二月、村田氏寿が書写整理したものである。浅井八百里、中根雪江、鈴木主税、渥美友高、加賀成昂、永田松斉、土屋十郎右衛門、秋田八郎兵衛、石原甚十郎、半井元冲、橋本左内、彦坂又五郎等の建白類が収載されている。）

一、中根靱負建白書　一冊

中根雪江　紙本墨書　二五・二×一八

（天保十年五月、十二才の松平春嶽に献言した中根雪江の建白書写である。歴代福井藩主の故事を引きながら、君主としての生活態度や政治姿勢、学問の重要性や健康保持の実際、早急に改革を要する藩政の問題点など、内容は多岐にわたり長文である。）

一、亜美理駕書翰　一冊

紙本墨書　二四・五×一七・一

（嘉永六年来航の米使ペリーが携えた書翰の和文訳、越前坂井郡棗村称念寺住職大道の事蹟、米国に於ける企業合同の趨勢と題する明治期の論文の三編を合冊したもの。）

一、逸事史補印刷原稿　一冊

紙本ペン書　一六・八×二四・二

（松平春嶽の幕末史論ともいうべき逸事史補の印刷用原稿である。昭和十四年発刊の松平春嶽全集第一巻編修の際のものと思われる。）

一、謾　録　十三冊

紙本墨書　一五・八×二三・七

（題箋に十九冊之内とあるが、現在は十三冊だけ保存されている。筆者、編者等不明であるが、三箇大事秘抄、寛政二年十一月新内裏遷幸之節駅路鈴御用記等の旧記の筆録、白石遺稿、国喪正義、三養随筆等の和漢籍の抜書、羽州米沢で発見された三頭の蛇骨の話など奇談風説の類も収録されている。）

一、明治三年御座所御用日記　一綴

紙本墨書　一六・五×二五・三

（松平家家令の手になる明治三年正月一日より十月一日に至る御用日誌である。松平春嶽、同茂昭のこの時期の生活を知る好史料であるが、虫害が激しく読解は困難である。）

一、正二位様御家譜草稿　一括

松平家　紙本墨書　二八・五×二〇

（昭和四十七年三月刊行の「春嶽公記念文庫解説目録　―文書編―」二十三頁に収録した「松平家々譜十三綴」の未綴残簡である。家譜は、越前松平氏の事蹟を歴代藩主毎にまとめたもので、藩政期より書継がれたものである。本文庫には、この内、十六代松平春嶽関係の分のみが収蔵されている。）

文書の部

二、古文書

二、古文書

一、稲葉美濃守宛、松平光通書翰　一幅

松平光通　紙本墨書　三三×四八・五

（福井四代藩主松平光通より藩老稲葉美濃守に宛てた自筆折紙状である。もと、稲葉家に伝来した稲葉家文書中の一点である。）

一、児島益謙宛、松平春嶽書翰　一巻

松平春嶽　紙本墨書　一七・七×七一・五

（松平春嶽の孫康荘が陸軍卿に随従して欧州遊歴中、種々援助を与えられたことに対する礼状である。）

一、松平慶民宛、松平春嶽褒賞状　一幅

松平春嶽　紙本墨書　三四×四一・五

（明治二十年七月二十七日付。満五歳四ヶ月の嫡男慶民が、手習で見事な清書をしたことに対する褒賞状。）

一、村田氏寿宛、橋本左内書翰添書　一巻

橋本左内　紙本墨書　一六×三五・四

（安政五年正月八日、江戸の左内より在藩中の村田氏寿に宛てた書翰の添書。開港問題等で動揺する幕府要人や、薩藩の動静などを報知している。村田氏寿は文政四年、福井藩士村田氏英の長男として生まれ、安政三年橋本左内と共に藩校明道館に出仕、のち幹事となる。翌四年松平春嶽の命により、横井小楠招聘の下交渉のため熊本へ赴く。元治元年七月、蛤御門の変が起った時、氏寿は藩兵を指揮して堺町御門を警備し、重傷を負う。更に慶応四年六月、会津征討に出陣、戦後の民政安定に努力した。維新後、福井藩大参事、福井県参事、岐阜県権令等を歴任、明治三十二年五月、七十九歳で歿す。明治四十一年刊、橋本景岳全集所収。）

一、中根雪江筆　人名覚書　一紙

中根雪江　紙本墨書　一七・七×三六・三

（何のための名列か不詳であるが、「有之分」「未寄分」の二つに分けて、福井藩関係の人名を列記してある。）

一、松平春嶽宛、山内容堂書翰　一巻

山内容堂　紙本墨書　一七・七×一〇六

（年月日不詳。書中「左内の詩拝覧、おもしろき様ニ被レ存候」などとある。）

一、W・E・グリフィス書翰封筒　二点

W・E・グリフィス　紙本ペン書　八・八×一六・九×二〇

（大正六年八月、在米グリフィスより春嶽公記念文庫創立者松平慶民に、グリフィス宛松平春嶽書翰四通を送付して来た折の外封筒と内封筒である。W・E・グリフィスは米国フィラデルフィアに生まれ、明治三年二十七歳の時、福井藩に招かれ来日、藩校明新館の化学及び博物学の教師として一年間教授、福井の青少年に大きな感化を与えた。さらに大学南校、東京開成校教師として三年間勤め、明治七年帰米した。日本近代化の黎明期に、人心を覚醒し啓蒙した貢献度は極めて大きかった。帰国後は牧師となり、「The Mikado's Empire」―皇国―等の著述を発表し日本紹介につとめ、昭和三年八十六歳で歿す。）

一、松平春嶽宛、プーセー・ガロー書翰　一面

プーセー・ガロー　紙本ペン書　三〇・六×一九

和文訳

「大学別當閣下へ

貴翰拝受。余早速返書ヲ左ニ認テ呈ス。我佛蘭国ニ於テハ地ノ震動スルコト甚稀ナリ。之レニ拠テ地震除ノ機械有ルヲ聞カス。余亦南部ノ亜墨利加洲ハ大地震数アレドモ此ノ危害ヲ除ル機械アルコトヲ信用セス。

プーセー・ガロー」

（松平春嶽が仏国科学者に対して問合せた地震対策に関する回答書である。明治三年五月二十日付。当時、春嶽は大学別当に任じていた。）

一、中根雪江宛、橋本綱常書翰　一巻

橋本綱常　紙本墨書　一六・七×六八

（橋本左内慰霊祭における中根雪江の援助に対する礼状。八月三十一日付。明治十年と推定される。橋本綱常は、福井藩医橋本長綱の四男として弘化二年に生まれる。橋本左内の末弟である。長崎に赴むき、シントレル、ボードイン等に師事、帰郷後、奥外科医兼医学教授方に任じた。維新後、欧州に遊学、軍医総監、貴族院議員、宮中顧問官、日赤病院長等を歴任、明治四十二年六十五歳で歿した。）

一、中根雪江宛、諸名士書翰　九通

臥雲童龍禅師ほか　紙本墨書

（永平寺第六十代住持臥雲童龍ほか、土谷某、姓不詳復斉、平松時厚等の中根雪江宛書翰。）

一、宝珠院宛、凌霜院書翰　一巻

凌霜院　紙本墨書　一四・五×九三

（福井藩士佐々木長淳の母より橋本左内生母梅尾に宛てた書翰。年不詳、六月一日付。）

一、松平慶民奉告文　一巻

松平慶民　紙本墨書　三九×五二・三

「　奉告文

従一位勲一等松平慶永公ノ神霊ニ告ゲ奉ル。公幕末多事ノ時ニ方リテ匪躬ノ節ヲ效シ随テ明治維新ノ機ニ際シ敢テ葵藿ノ誠ヲ棒ゲテ、皇運ヲ賛襄ジ、実ニ偉大ノ功ヲ奏セラレタリ。之ニ依テ朝廷明治二十一年一月十七日茂昭公ニ侯爵ヲ陞授セラレ、更ニ明治三十九年九月十七日慶民ニ子爵ヲ賜ハルニ至レリ。不肖慶民日夕追慕ノ情ニ堪ヘズ感激ノ念禁ズル能ハズ。曩ニ明治四十二年学卒ヘテ英国ヨリ帰朝スルヤ家令武田正規ガ

ふぢニ託シテ遺リシ御秘書逸事史補ヲ拝讀シテ忽爾トシテ御事蹟闡明ノ意ヲ生ジ、大正元年侍従ヲ拝スルニ及ビ弥々　皇室ノ尊厳ニシテ国體ノ秀絶ナルヲ感得シ、苟モ之ガ藩屏タルモノハ各々其歴史ヲ攷究シテ崇祖ノ精神ヲ確固ナラシムルノ最モ切要ナルコトヲ了知シ、加フルニ公ガ逸事史補ノ序ニ

余オモヘラク天下ノ人民智識ヲ弘メ見聞ヲ明ニスルハ歴史ニシクハナシ、何トナレハ歴史ハ前代ヲ考フルノ必要ナルモノニシテ闕ク可カラサルモノナリ

ト示シタマヘルヲ見テ大ニ発憤スルトコロアリ。即チ本年二月御伝記編纂ノ志ヲ立テ直ニ康荘ニ謀リニシ、余素ヨリ期スルトコロ宜シク協心戮力之ニ当ルベシトテ慶民ニ其主宰タルコトヲ命ジ、自ラ義親ト共ニ顧問トナリ以テ茲ニ春嶽公記念文庫ヲ創設スルコトヲ決定セリ。而シテ旧福井藩士出身従五位有馬祐政正八位芦田伊人藩士民ヲ始メトシテ広ク天下諸人ノ輔翼ヲ得テ一ハ御伝記ヲ完成シ一ハ御史料ヲ永遠ニ存置セントス。

公ノ二十八年御例祭日ニ当リ、恭シク玉串ヲ捧ゲテ追孝ノ誠意ヲ表シ奉ル。不肖慶民頓首再拝謹ミテ白ス。

大正六年六月二日

侍従従四位子爵松平慶民」

（大正六年、松平慶民が麻布邸内に「春嶽公記念文庫」を創設した際、亡父松平春嶽の霊に、その設立を奉告したものである。本文庫設立の趣旨が明確に覗われる。）

一、春嶽公記念文庫史料　第百一～百六十号　六十件

（この六十件の史料は、これまで他の文庫史料と区別して、茶封筒に収めて保存されてきたもので、未だ本文庫に於いて最終的な整理が施こされていなかったものである。写や控の類が多いが、中には貴重な原本史料も含まれている。また、写、控の類も、大半が原本の失なわれたもので、それなりに大きな史料価値を有している。猶、第一号から百号、並びに百六十一号以下の史料については、今日その伝来が不明である。

史料を収めた茶封筒には、それぞれの内容物につき簡単な解説が書込まれているので、ここでは、その表書のままを左に示した。）

目　録

番号	内容
第百壱号	美濃紙縦綴帳　二冊 安政二年在国中ノ慶永公ハ露国船大阪天保山沖ニ入港セル飛報ニ接シ京都警備ノ手薄ナルコトヲ痛感セラレ春ク側御用人中根靱負ヲ江戸表ニ指下シ老中阿部伊勢守ニ対シ近畿警備ノ任ニ當ランコトヲ希望シテ差出サレタル　意見書　控二通
第百弐号	文久二年壬戌八月慶永公政事総裁職在職中幕政改革ノ第一トシテ其私政ヲヤムベキコトヲ主張セラレタル意見書　草稿三冊　控一冊　美濃罫紙
第百参号	松平安藝守ノ担當ニツキ老中水野和泉守忠精ヨリ慶永公ヘノ書面 文久四年二月十一日即元治元年二月十五日慶永公ハ京都守護職仰出サル
第百四号	文久二年十二月五日攘夷ノ勅書ヲ拝シ将軍家茂ノ御請書写　一（慶永公ノ政事総裁職時代）
第百五号	公武合体ニツキ島津三郎ト協力スベキ旨京都守護職松平肥後守ヘノ書面写　文久二年十二月二日付
第百六号	島津三郎ノ大久保市蔵ヲ使トシテ近衛関白粟田青蓮宮ニ差出シタル建白書写　十二月
第百七号	松平京都守護職ヲ罷メテ島津三郎ヲ以テコレニ任セントノ朝廷ノ御沙汰書写　一　十一月
第百八号	文久二年六月十日大原勅使東下シテ幕政改革ノ三事業ノ勅諭中 一橋慶喜少将余ノ後見職ニ松平慶永ヲ大老トシ幕政ヲ改革セシムベシトノ御沙汰書写
第百九号	文久二年六月二十三日家老本多飛弾松平主馬ヲ以テ老中首座脇坂中務大輔ニ差出サレシ大政加談ノ辞退書控　直筆一

第百十号　文久二年九月六日出立京都十二日福井着ノ書面

第百十一号　文久二年壬戌閏八月正親町三條大納言ヨリ戸田越前守家老間瀬和三郎へ贈ラレタル書面写
間瀬ニ上京ヲ懇請シタル書面

第百十二号　文久二年壬戌十月九日容堂ヨリ指越シタル勅書写　慶永公直筆
醜夷拒絶ノ期限奏聞ノ御沙汰書

第百十三号　文久二年九月五日塩谷甲蔵ノ尾張ヨリ慶永公ニ差上ケタル意見書

第百十四号　文久二年壬戌十月十九日山内容堂ヨリ指越セル勅書写　慶永公直筆
親兵被為置ニ付武器糧食等相應貢献ノ様仰出トノ御沙汰書

第百十五号　文久二年壬戌十月十九日山内容堂ヨリノ指越シタル勅書写　慶永公直筆
親兵設置ニツキコノコトニツキ尽力スベキ旨容堂ニ命セラレタル御沙汰書

第百十六号　文久二年十二月四日攘夷ノ期日早々列藩ノ衆議ヲ尽シテ決定ノ上明年内明春ニモ言上スベキ旨
勅使ノ口上覚書

第百十七号　文久二年壬戌八月九日松平肥後守京都守護職任命ノ際職ワケノ件ニツキ会津藩家老横山主税ヨリ差出シタル口上書

第百十八号　文久二年七月二十六日勅命ニヨリ一橋慶喜ハ将軍後見職、松平慶永公ハ政事総裁職ニ任命セラレシ際薩ノ大久保市蔵ヨリ公武御合体幕政改革ハ両公ノ断ノ一事ニアリトテ提出シタル書面

第百十九号　文久二年十二月十三日近衛忠凞公ヨリ松平慶永公ニ送ラレタル書面
将軍上洛一和ノ事成ルベキハ恐悦コノ上ナシ攘夷ノ期日決定ノ為勅使ヲ遣ハシタリ何分公武御和合専要ナリト其衷情ヲ述ベラレタリ

第百二十号　文久二年十二月二十四日将軍家茂ノ摂海検分ニ付随行ノ老中小笠原図書頭ヨリ同列ニ送リタル航海日程其他将軍ノ旅館座乗幕船順動丸ニツイテ

第百二十一号　文久二年一橋慶喜ヲ将軍家茂ノ後見職トナスコトニツキ幕府側ノ反対意見
書面ラシキモ名宛判明セス老中ノ一人ガ何レカニ送リタル書面ノ写カ
第百二十二号　安政六年七月水戸ニ降下セル密勅返納ニ付水戸ノ有志ヨリ差出シタル歎願書写
第百二十三号　文久二年壬戌八月尾張家中納言大納言ニ推任宣下ニツキ仝九月松平長門守ニ周旋ヲ命ゼラレタル書面
第百二十四号　文久二年壬戌十二月五日将軍家茂ヨリ御親兵設置ニツイテノ奉答書写
第百二十五号　文久二年壬戌十二月十六日文久銭鋳造ニ付寺嶋安之助ノ願書
第百二十六号　文久二年壬戌十二月二十四日松平相模守ヨリ指越タル粟田青蓮宮御書写
第百二十七号　文久二年九月中納言三條実美卿ハ少将姉小路公知ヲ副トシ鎖国攘夷ノ勅旨ヲモタラシ東下ノ際京都守護職松平容保ヲ通シテ勅使ニ対シテハ今日マテノ例規ニヨラズ相当ノ礼遇ヲ尽サレタシトノ意ヲ伝達シ来リシカ幕府ノ要路ハ祖法ヲ破ルモノトシテ反対意見濃厚ナリシガ政事総裁職ニアリシ松平慶永公ハ君臣ノ大義ニ基キ其実践ヲ主張セラレテ決定シタル勅使江戸城入城ノ際将軍勅使ニ対面アル際次第書　一通
三條中納言ニ差出サレタル書面写
第百二十八号　文久二年九月攘夷ノ勅旨ニ対シ奉勅ノ際人心折合ザレバ外国ノ処置姑息ニ流レ御国威モ相立難ク全国心ヲ合セ必戦ノ覚悟ヲ以テ実備ヲ定メ戎夷ノ慢ヲウケス彼ノ無道ヲ攘フベキ策略ヲ建ツルトイフ御趣意ナルベキヤト伺ヒ立テタル伺書
草案ハ慶永公自筆　一通
第百二十九号　文久二年勅使大原少将護衛東下ノ際島津三郎ヨリ近衛関白粟田青蓮院宮ニ差出シタル書面写
二通連続　一通
第百三十号　文久二年幕政改革将軍上洛礼文主義廃止ニ就キ容易ニ実績アガラズ一橋後見職ハ病ト称シテ登

城セス勅使ノ江戸着ハ目睫ノ間ニ迫リ幕府ノ要路ノ狼狽セルヲ見テ要ハ幕政改革ノ精神ヲ通シテ其実蹟ヲアクベキコトヲ高調シ御用部屋ニ差出サレタル政事総裁職松平慶永公ノ意見書草案

一

第百三十一号　文久二年壬戌十二月八日御親兵ノ件ニツキ松平長門守ヨリ差出セシ書面　一

第百三十二号　松平慶永公ヨリ近衛関白辞職指留ノ書面控

第百三十三号　明治二十一年五月十六日付福羽美静ヨリ自藩主亀井茲監ノ歌集出版ニ付親交アリタル慶永公ニ対シ耳目ニ映ジタル亀井侯ニツイテ公ノ批判ヲ求メタルノ書面

第百三十四号　十一月十七日福沢諭吉ハ一太郎捨次郎両児ノ帰朝記念ノ園遊会ヲ仝月二十五日三田慶應義塾ニ開催セシ時慶永公ヘノ招待状

第百三十五号　宮内省侍従職ヨリ慶永公ニ下サレ物御沙汰書　四

第百三十六号　明治二十年十二月二十一日福井縣書記官遠藤達ヨリ慶永公ヘノ書面　他一

第百三十七号　文化補記事　一冊

美濃大判二ツ折　五枚綴

文化七年庚午八月軍学師範井原頼贇起草兵制布陣軍粮人馬之制二巻ヲ編シ之ヲ文化補軍帳ト称ス慶永公コレヲ賞シ為ニ潤色ヲ加ヘラレタリコ、ニ其由ヲ記シテ巻末―文化補記事―トナストアリ

第百三十八号　藩関係文書　雑綴ヨリ分割　第一

一、福井旧藩士ニテ當時宮内権大丞ニ就任シアリシ堤正誼ニ松平家家政顧問ヲ委嘱セラレシガ明治八年十二月二十五日家政ノ基礎確立セシ功労ヲ謝シ物品ヲ贈与セラレシ際ノ感謝状写

二、安政元年八月十三日川越藩主松平典則―誠丸―致仕シ同日水戸徳川斉昭ノ男八郎麿コレヲ相続セシガ八郎麿ヲ誠丸ノ嗣子トシテ迎フル為ニ川越藩ノ重臣ヨリ水戸家ニ贈リタル歎願書

写　一

三、御家中由緒書村田巌所蔵目次写

四、維新後旧藩士ニシテ功労アル者ノ履歴書但執政ニ限ル差出ノ原令ニ対シ藩ノ断書控

五、水戸ノ徳川家ニ降下ノ攘夷ノ密勅写

六、公武合体外虜ノ事ニ衆議ヲ尽スベシトノ勅綻写

七、安政五年井伊幕閣ノ組成名列

第百三十九号　中根雪江案文　雑綴ヨリ分割　第二

一、中根雪江記写　富田鷗波朱書入

平田篤胤小伝案文　篤胤ノ著書ノ序文カ

二、墨夷ノ申立ニ対シ幕府ヨリ諸侯ノ意見ヲ徴シタルガコレニ対シ中根雪江ハ己レノ抱懐ヲ吐露セシモノカ

三、将軍家茂第二回ノ上洛ト共ニ公武一和成ラントスル際中根雪江ノ将軍ニ疑シテ上奏文ヲ起案セシモノカ

第百四十号ノ一　長防征討一件書類　雑綴ヨリ分割　第三

長防ノ藩情ニツキ幕府ノ捜索方ノ報告写　禁門ノ変後一年慶応元年ノ実情ナラン

禁門ノ変後長防征討ニヨリ長ハ服罪謹慎スベキニ其実アラズト幕府ハ永井主水正等ニ命ジ八ヶ條ヲアゲテ詰問セシムコレニ対スル長ノ重臣宍戸備後助ヨリノ回答コレニ永井等ノ復命書写

二

長防問罪―第一回長防征討―書中根雪江ノ手写ナルカ

第百四十号ノ二・京華日録　自文久四年一月一日至仝年一月七日　第四号

白馬節会ノ記事アリ

第百四十一号　水戸家関係書類　雑綴ヨリ分割　第四

一、水戸有志ノ士ヨリ小石川邸ノ同志ニ送リタル書面写　一冊　美濃紙七枚綴

時ハ文久年間十二月将軍家茂上洛ノ日取ヲ二月ト決定セシ以後

二、文久元年中諸生党ヨリ天狗党ノ不逞ノ行動ヲ幕府ニ訴ヘテ自ラ逞クセントシ訴人ヲ江戸南町奉行池田播磨ノ役所ニ駈込マシタルカ其後ノ幕府ノ思惑其他日常ヲ諸生党ノ首領ニ報告連絡ヲトリタル書面写　二通

三、水藩判決文集トアルモ　拠点不明

第百四十二号　雑綴ヨリ分割　第五

應部分彰考書目事　美濃紙九枚綴　一冊

田安大納言隠居申渡　一件　写

険約令　一件　写

第百四十三号　文久二年十月十五日京都町奉行瀧川播磨守永井主水正ヨリ大目付岡部駿河守浅野伊賀守目付小栗豊後守ヘ京状報告　写

第百四十四号　嘉永七年八月閣老阿部正弘ヨリ御印封ニテ御渡相成リタル阿蘭陀ヨリ差出シタル風説書

第百四十五号　堀織部正ヨリ幕府ニ差出シタル薩哈連州魯寇始末　美濃紙四十七枚綴

第百四十六号　慶永公ヨリ水戸老公ニ差出サレタル時勢急務策

御書面草案橋本左内　中根雪江加筆　成案ハ平本平学浄書

安政五年五月條約問題建儲問題ノ諸懸案ハ飽迄幕府本位ニ時事日ニ非ニ奸兇跋扈シ忠良斥ケラルルヲ見タマヒ慶永公ハ親シク水戸老公ニ謁シテ幕政改革ヲ劃策セントノ熱意ヲ有シタマヒタレドモ世ノ誤解ヲ慮リ水戸藩ノ安島弥次郎ヲ常盤橋ノ藩邸ニ招キ中根靱負ヲシテ互ニ其抱懐ヲ談論セシメタマヒ仝月二十二日終ニコノ書面ヲバ安島弥次郎ヲ通シテ老公斉昭ニ呈出セシ

メラレタルナリコノ一綴中二策三策四策トアルハ削除セラレタルモノノナルベシ

第百四十七号　慶永公たのしめる歌　橘曙覧ノ獨楽吟ニナラヒテ詠マセタマヒシ歌　五十首

橘曙覧ノ第四歌集　君来艸の中に

おのが草廬の中に潜み居りつゝ心のうちに獨嬉しと思ふことの朝夕おのつからありけるをりそゝろによみうかひたる謌のつもれりけるを青年翁見てこれを書き連ねてくれよといはれけるにより書てまゐらせけることのありけるを翁宰相君の御まへに書御覧せさせられけるを御意にやかなひたることのありけむ謌のすかたにならはせ給ひ畏くもよみ出給ひしをこれを曙覧に見せよとの給へりし由翁うけたまはりつたい御謌見たとまつること、なりけるをいたくかたしけなく云々トノ前書アリテ

雀等かさへづりこと美鳥の声あはせむと思ひかけきや心狭き雀鷦鷯のさへづりを何風吹きて空につたへし

第百四十八号　千八百六十八年二月十一日慶応四年二月十一日太政官設置ヲ各国公使ニ通報シタル号外　ジャパンタイムス

第百四十九号　常陸宮ニ宛テタマヒタル東伏見宮ノ御書　越前守慶永ノ書御返戻ノ際ノ添状

第百五十号　明治二十年十一月十二日仝月十七日正午吹上瀧見御茶屋ニテ午餐下賜ノ旨土方宮内大臣ヨリノ達書

第百五十一号　明治二十三年二月三日皇女御命名ニ付参賀御沙汰書

第百五十二号　明治二十三年三月十二日正午御陪食ノ御沙汰書

第百五十三号　細川越中守斉護公ヨリ慶永公ニ宛テタマヒシ書面

細川家ニテ勇子姫トノ約婚ヲ取消サレテ差支ナシト申出デタルヲ公ハ約ヲ変更スベキ理由ナシト主張サレシ際ノ書面ニアラザルカ

第百五十四号　安政三年六月二十一日細川斉護公機嫌伺
明治元年十月十九日仝侯御召待ノ請書
第百五十五号　明治二十一年十月四日皇女御命名ニ付仝六日参賀参入ノ御沙汰書仝年仝月六日皇女御名通達書
第百五十六号　慶永公ニハ明治二十一年九月十日従一位御拝叙ニツキ仝十二日閑院宮家ヨリノ祝賀状
第百五十七号　明治十八年十一月二十四日浜離宮ニテ御猟ノ鴨六羽下賜ノ旨侍従職ヨリノ通知
第百五十八号　千八百七十年即明治二年三月二十日慶永公ガ佛蘭西アメリカ両国ニ地震除ケノ器械ナキカヲ問合セラレタルニ　プーセー・ガロー両人連名返書
第百五十九号　明治二十二年十一月観菊御会ニ御召状仝月九日延期十八日御召二十二日観菊参観御許可合セテ三通
第百六十号　明治二十二年十一月三日嘉仁親王殿下立太子被仰出ニ付當日ノ御召状

一、大阪御陣之大概並御触状之写　二巻

紙本墨書

（福井藩士井原家並びに長崎家に伝来した同一内容の文書で、大阪御陣之大概と題する越前勢の隊列図と、慶長十九年十月二十一日付、忠直様大阪御陣御触状の写が収められている。）

一、越前国大野郡五条方村・中野村等関係文書　十五点

①嘉永元年十一月、五条方村申御物成米銀庭帳　一綴
②文化五年十一月、五条方村申御物成米銀庭帳　一綴
③明暦四年二月六日、中野村申之物成小役品々皆済之帳　一綴
④万治三年二月二十四日、中野村戌之物成小役品々請払皆済帳　一綴
⑤寛永二十一年二月十五日、中野村高除引方之帳　二綴

⑥正保四年四月十一日、中野村御屋敷引方帳　一綴
⑦万治二年二月八日、中野村酉之物成小役品々皆済之帳　一綴
⑧寅御物成皆済目録ほか五条方村関係文書　四通
⑨元和三年十二月七日付、辰年中野村算用状ほか中野村関係文書　四通

一、浅井八百里密書　九通一片

浅井八百里　紙本墨書

「（端裏書）
主税様　八百里
緊要用御直披

（本文）
先刻於御馬見所、女中之呟（ヤヤキ）声相聞へ候刻、何事が御おかしく被成御座候哉、殊之外御失笑被遊、夥敷御涎出候て、誠ニ以御見苦敷御様子、近来ハ大分御成徳之御様子ニも伺居候處、近来ニ無之御放心之御威儀相伺、何共恐入、見上奉るに忍び不申候ひき。是に依て乍恐伏察仕候処、表ニ被為入候節ハ、御勉強被遊候て御威儀ヲ御繕ひ被遊候得共、大奥御住居向杯ニてハ、定て右様之御様子常々被為在候が、風と今日表ニて御顕ハれ被遊候御事ニやと奉存候。所謂、君子惜ニ一嚬一笑一と申古語も有之、鳥渡いたし候儀ニて大キ成御失徳ニ相成候儀ニ御座候。右之段、明日出勤之上、御直々可申上歟と先刻より餘程相考居候へ共、明日迄待タレ不申候間、不取敢一応申上候。下拙事ハ是迄右様之儀有之候へハ、猶豫ナク申上候儀ニ御座候間、只今御入切中ニても不苦候間、此書面を以被入御聴可被下候。尤御前ニも只今頃ハ御後悔可被遊哉とは奉存候得共、下拙之心事も不申上候半てハ落着□候間、鳥渡申上候。以上。

弘化二乙巳年六月五日

（浅井八百里は、文化十年福井藩士として生まれ、名は政昭、柏庭、秋水軒などと号した。幼少より学問を好み、天保元年十七歳の時、学業優秀なりとして藩主の賞与を受けた。天保九年、松平春嶽が十一歳で藩主となるや、縁戚にあたる中根雪江とともに、学問の上から国家につくす明君に育てあげんと言いかわし、主君の教育と輔佐に全身全霊を打ちこんだ。春嶽は晩年、その著「真雪草子」の中で、自分の人生に最も幸福であったのは、家臣に浅井八百里がいたことであると述べて、その恩恵に感謝している。清廉潔白な人柄で、藩士達は君子なりと賞揚したが、嘉永二年わずか三十七歳で歿した。

右に原文のまま一通を示した、この九通の書翰は、弘化年中、春嶽が十七、八歳頃、八百里が幼君の日常の言動について、心づいた点を細かく注意したもので、心血を注いで主君を補導した八百里の精神をよく示す史料である。春嶽は晩年、この九通の書翰を他と区別して包装、厳封の上、「再勿開　浅井八百里密書」と表書して秘蔵していた。）

一、秘　書　四十七通

中根雪江・秋田弾正・石原期幸外　紙本墨書

（前提、浅井八百里密書と同様、松平春嶽が他と区別して密封し、「秘書」と表書して秘蔵していたものである。中根雪江書翰三十通、秋田弾正書翰十五通、石原期幸、並びに愛軒と差出人の署名があるもの一通づつからなっている。春嶽がこれら近臣と取交わした私的な書翰類で、「右は恐入候へ共、不レ忍二黙止一、最期之上書如レ此二御座候。人生如二朝露一御座候へハ、絶筆ニも相成候ハハ、乍レ恐御忘れ不レ被レ下候様奉二願上一候。」と結んだ安政六年十月十一日付、橋本左内刑死直後の雪江の書状など、緊迫感にあふれる史料である。）

一、諸名士書翰等未整理史料　一括

（他藩々主との往復書翰、明治以降の松平家の家政関係書類等、未整理のまま一括寄贈されたもので、この目録刊行までに整理が及ばなかった史料である。明治初年の大名家の状況を知る上で、重要なものが少

なくない。）

一、橋本左内・梅田雲浜書翰複製　二巻

橋本左内・梅田雲浜　二三・五×一二・五、二三・五×五〇・四

（福井出身の印刷業者、三秀舎主の島連太郎が作成配布したもの。いづれも安政年間、福井藩士村田氏寿に宛てた書翰である。）

一、遺愛帖（鈴木主税宛書翰集写真版）　二冊

乾坤二冊帙入　一九・四×二九・三

（本書の原本は今日所在不明であるが、明治五年に作成され、同十年松平春嶽が閲覧した旨の序文がある。その後、写真版として複製され、折本仕立に表装されたが、今日この写真複製本のみが伝えられている。藤田東湖・横井小楠・菊池為三郎等の鈴木主税宛書翰が収められている。鈴木主税は、文化十一年福井藩士海福正敬の子として生まれ、名は重栄、純淵、鑿城などと号した。同藩鈴木長恒の養子となり、その英才振りは早くより藩内の評判となった。天保十三年寺社奉行、のち町奉行に転じて善政をしいた。この間城下木田の町民が、その仁政を深く感謝し、生前より世直神社を創建して神と仰いだことは有名である。弘化二年以降、側向頭取、側締役などに任じて年少の藩主春嶽を補佐し、藩政の一新をはかった。俊秀橋本左内を見いだし春嶽に推挙したのも主税であった。水戸の藤田東湖は「今や真に豪傑と称すべき者、天下に鈴木主税・西郷吉之助あるのみ」と評している。）

一、中根雪江宛書翰貼交屏風写真　二枚

一九・八×三三・〇　台紙貼写真

松平春嶽写真裏書

「故中根雪江ヨリ貴顕紳士之往復ノ手翰を屏風ニなしたるを撮影す。於福井也。中根牛介上京ニ付呈ス。

No.27th. March Y.Matsudaira」

（中根雪江が晩年、自己に宛てられた諸名士の書翰を小屏風に仕立、雪江歿後、嗣子の牛介が写真版として松平春嶽に呈上したもの。大久保忠寛、橋本左内、西郷吉之助等の書翰が収められている。）

一、米国務大臣W・H・セワード宛　臨時軍務大臣U・S・グラント書翰複製　一点

紙本印刷　六一×七六

（慶応三年、福井藩士佐々木権六が兵器研究等の目的で松平春嶽により米国に派遣された際、その便宜をはかるべく、米国大臣間に取交わされた書状で、後日、複製印刷されたものである。原本が失われた今日、福井藩の西欧技術導入の様を示す史料として貴重なものと言える。佐々木権六は、天保元年福井に生まれ名を長淳という。藩命により兵学を学び、軍事にたづさわり慶応三年、松平春嶽の命によりアメリカに渡り、武器購入の交渉などに当る。維新後、工部省に出仕し、広く海外を視察、殊に養蚕関係の仕事に功績を残した。大正五年、八十七歳で歿す。猶、本史料には、次の和文訳が付属している。

「西暦一千八百六十七年八月八日付ノ貴書正ニ落掌。扨今般日本越前侯ハ我陸軍全体ニ関スル兵制ヲ承知セラレ度趣ニテ、重役佐々木権六君ヲ以テ右ニ関スル必需ノ書籍軍器等全部、合衆国政府ヨリ購求セラレ度旨申入レラレタル条承知セリ。右ニ就テハ更ニ異存ナキコトナレバ、同君ノ依頼ニ応ジ夫々取計ヒ申スベシ。依テ兵站部長官ヘハ各種軍装即工兵砲兵騎兵歩兵等軍装、又軍法長官ヘハ野戦軍器即現時使用ノ小口径大砲馬具改良「モスケット」銃等、又副将官ヘハ陸軍教育及ビ法規ニ関スル書類ヲ佐々木権六君ヘ相渡スベキ旨ヲ命令シ置キタレバ、此段通知ニ及ベリ。又海軍兵制法規等ヲモ請求アラバ海軍省ヘ照会アリテ然ルベシ。

一千八百六十七年八月二十二日

臨時軍務大臣ユー・エス・グラント

国務大臣ダブリウ・エッチ・セワード殿」

文書の部

三、典籍

三、典　籍

一、木版般若心経並梵本心経・呪二首書写本の巻軸。付銅製経筒。　二点

僧賢龍　紙本木版・墨書　二四×一二〇〇（経筒径八・五　高二七）

写経奥書

「右擬清虚法師昔発願、為三途受苦有情受持、金剛般若旨、予亦聊写梵本心経及呪二首、亦日別而誦般若大心之呪廻為離苦得楽故。

安政四巳年正月　賢龍」

（大正中期、東京麻布富士見町の松平慶民邸内より出土したもので、木版本般若心経三十二枚と梵本心経書写本、般若無尽蔵陀羅尼・仁王護国般若経陀羅尼書写本各一点づつが経筒に収められていた。）

一、「ECHIZEN SHUNGAKU」タイプ原稿　十四葉

W・E・グリフィス　紙本タイプ　三二・九×二〇・四

（大正中期、在米グリフィスより春嶽公記念文庫に寄贈された原稿で、行間をペンで校正してある。猶、校正中に一九一八年の記入があり、大正七年頃の執筆と思われる。）

一、礫川文庫書籍目録並松平子爵家書籍目録　二冊

紙本墨書　二七・八×一九・二、二七・四×一九・六

（礫川文庫は、明治期の松平春嶽座右の文庫名で、明治初年春嶽が居を東京小石川に移したことにより、この称が付されたものである。明治期の文庫といっても、その内容は春嶽の生涯を通じての手沢本を収めたもので、読書家としての春嶽の真面目と、その読書傾向を余す所なく伝える好史料である。皇典、神祭、経書、子類、本朝歴史、支那歴史、欧州歴史、地理書、法律、政事、経済、字書、日誌新聞等、全体を四十二項に分類し、総数九千九百五十七冊の書籍が収められている。）

松平子爵家書籍目録は、松平春嶽嫡男慶民が、明治末期に至り別に一家を創立して独立した際、春嶽の遺命にもとづき相続した父の遺文、遺品等の中に含まれていた書籍類で、大部分は右記礫川文庫中より移管されたものである。総数五千三百十一冊の書物が、三十七項に分類、収録されている。）

一、田安徳川家譜・田安系譜　二冊

紙本墨書　二六・八×一九

（いずれも春嶽公記念文庫の史料収集活動の一つとして謄写されたもので、田安徳川家譜は、東大史料編纂所蔵本を大正六年九月に、田安系譜の方は、徳川達孝家蔵本を大正六年十一月に、それぞれ筆写したものである。）

一、官版官位相当表　一面

紙本木版　三八・七×二六・五

（松平春嶽手沢本。明治改元直後の官位相当表で、御用御書物師　須原屋茂兵衛・和泉屋市兵衛の製版である。）

一、PICTURE PACES BRICHT & CAY TO WHILE THE WINTER HOURS AWAY　一冊

T.NELSON & SONS LONDON　二七・五×二一・五

（松平春嶽手沢本で、「蒙童日費草子」という和訳名の付箋がある。明治初頭の英国製絵本。）

一、洋雑誌並付録　十五冊二葉

英・米・濠・独　四二×二九外

①THE ILLUSTRATED LONDON NEWS

(英)一八七一年(明治四)　九月九日刊　一冊

同　九月十六日刊　一冊

同　九月二十三日刊　一冊

②FRANK LESLIE'S ILLUSTRATED NEWS PAPER

㈱一八七一年(明治四)　一月二十八日刊　一冊

③HARPER'S WEEKLY JOURNAL OF CIVILIZATION

㈱一八七〇年(明治三)　十月八日刊　一冊

同　付録　一枚

一八七一年(明治四)　一月十四日刊　一冊

④DAYS' DOINGS

㈱一八七一年(明治四)　一月七日刊　一冊

同　一月十四日刊　一冊

同　一月二十一日刊　一冊

⑤THE ILLUSTRATED AUSTRALIAN NEWS

㈱一八七一年(明治四)　九月九日刊　一冊

⑥ILLUSTRIRTE PRITUNG

㈱一八七〇年(明治三)　六月二十五日刊　一冊

同　七月二十三日刊　一冊

同　七月三十日刊　一冊

一八七一年(明治四)　三月四日刊　一冊

同　三月十一日刊　一冊

⑦書籍広告　一枚

(いずれも、明治初期における松平春嶽手沢本で、春嶽が当時、熱心に海外の知識と情報の吸収につとめたことが知られる。)

一、ILLUSTRATED LONDON ALMANAC　十二冊

THE OFFICE OF THE ILLUSTRATED LONDON NEWS　二八×二〇・五

（いずれも松平春嶽手沢本で、一八七〇・七一・七二・七三・七六・七七・七八・八二・八三・八四年版が残されている。この内、一八七二・七三両年の分は、フルベッキ等外人教師が贈呈したものである。）

一、PRANG'S AIDS FOR OBJECT TEACHING TRADES AND OCCUPATIONS　六面

BOSTON L.PRANG AND COMPANY　三六・二×五六

松平春嶽筆表紙端書

「明治十一年三月四日、福沢諭吉初テ入来之節所贈。併十二枚、内六枚ハ茂昭へ配布ス。春岳雅玩。」

（一八七五年版の米国初等教育用掛図で、服屋、印刷屋、庭師等の職業や、牧草刈、台所、農家の庭等の作業を説明するのに使用したものである。明治十一年三月、福沢諭吉が松平春嶽に呈したもの。）

一、THE AMERICAN BOOKSELLER　一冊

THE AMERICAN NEWS COMPANY　二八・八×二〇・六

（松平春嶽手沢本で、一八八三年の出版である。表紙に春嶽自筆の貼紙があって「千八百八十四年、即二千五百四十四年、即明治十七年六月三日、米人エム・エン・ワイコッフヨリ送ル所ナリ。」とある。）

一、THE DECLARATION OF INDEPENDENCE　一紙

MITCHELL MAP COMPANY PHILADELPHIA　三〇×二四

（佐々木権六が米国より帰国後、松平春嶽に上呈したと思われる「米合衆国独立宣言」の印刷複製本である。一八七六年、米国独立百年記念式典に際し作製されたものと思われる。）

一、福井藩士禄高分限競　一幅

山本　晋　紙本活版　七六・四×五二・七

（幕末、松平春嶽時代の福井藩給帳をもとに、山本晋が番付風の一覧表を作製、大正七年六月に福田源三

郎が出版したものである。）

一、松平春嶽全集第四巻初校本外　一帙五冊

松平家蔵版　紙本活版　一九・一×一四・一

（松平春嶽全集は昭和十四年より同十七年の間に、第三巻までが出版配布され、続く第四巻も昭和十九年夏製本を完了し配本を待つばかりとなっていた。しかし、配本直前に至り空襲のため残らず焼失、出版事業は中絶せざるをえなかった。本初校本は、全く幸いにも、全集編輯者の一人芦田伊人氏が保存していたもので、のちに春嶽公記念文庫に移管されたものである。昭和四十八年六月、原書房から出版された「松平春嶽全集　第四巻」は、本初校本を写真製版したものである。

猶、本資料には、全集第一巻より第三巻までの凡例、目次、索引等の初校も付属している。）

一、常磐廼古言　一冊

芳野すげ子　紙本墨書　二五×一七

（芳野菅子は八十瀬と称し、幕末の大儒芳野金陵の長女で、明治初期の東京府会議長芳野世経の姉である。安政四年、十六歳の時、松平春嶽に召抱えられ奥女中となる。のち奥老女頭の格に進み、常に春嶽の側近に仕えた。明治四年三十五歳の時、松平家から暇を乞い、その後飯野吉兵衛に嫁ぎ、一女「のぶ」を生んだが、程なく同家を去り、東京逢原女学校の主任となる。明治四十一年廃校となるや、のぶの嫁いだ県立福井病院長小出伊勢治方に起居し、大正四年二月、七十九歳で歿す。菅子は、初め水戸の間宮八十子に和歌を学んだが、福井城内に移ってからは、橘曙覧に指導を仰いだ。

本書は、明治四十四年九月、七十五歳の菅子が大奥における年初めの儀式や、三月三日、五月五日等の諸節句の行事次第を追懐しつつ記録したもので、松平家奥向の年中行事次第というべき内容である。藩政期の大名とその家族の日常が伺われる。）

一、和洋対暦表　一冊

丁抹国　撫蘭仙　紙本活版　二二・七×一四・九

（松平春嶽手沢本で、明治十三年一月出版。我国の大化元年より明治六年までと西暦六百四十五年より千八百七十三年までとを対比したもの。）

一、春嶽公記念文庫旧蔵図書　五十八冊

①松平春嶽全集　一～三巻　三組六冊　（昭和十四年より同十七年刊。）

②松平春嶽全集　四巻　三部　（昭和四十八年六月刊。）

③松平慶永公同茂昭公経歴略　五部　（玉村美雄編。昭和十五年五月刊。）

④春嶽遺稿　四巻一帙　（松平康荘編。明治三十四年十月刊。）

⑤逸事史補複製本　二部　（松平慶民発行。昭和九年二月刊。）

⑥鉄心遺稿　五巻一帙　（大垣　小原寛編。明治六年刊。）

⑦侯爵松平康荘同夫人節子御略歴　一冊　（加藤亮一編。昭和十二年十一月刊。）

⑧松平春嶽公　一冊　（徳山国三郎著。昭和十三年四月刊。）

⑨子爵由利公正伝　一冊　（三岡丈夫編。大正五年八月刊。）

⑩橋本景岳全集　上・下巻　二冊　（景岳会編。昭和十八年一月・六月刊。）

⑪橋本左内全集　一冊　（景岳会編。明治四十一年六月刊。）

⑫昨夢紀事　上・下巻　二冊　（中根雪江編。明治二十九年九月刊。）

⑬昨夢紀事　一～四巻　四冊　（中根雪江編。松平家蔵版。昭和二年八月再刊。）

⑭再夢紀事　一冊　（中根雪江編。松平家蔵版。昭和二年九月再刊。）

⑮越前若狭古文書選　一冊　（牧野信之助編。昭和八年十月刊。）

⑯福井県の伝説　一冊　（河合千秋編。昭和十一年二月刊。）

⑰関西巡回記　一冊　（村田氏寿著。永井環編。昭和十五年刊。）

⑱横井小楠　上・下巻　（山崎正董編。昭和十三年五月刊。）
⑲新日本の先駆者　日下部太郎　一冊　（永井　環著。昭和五年十月刊。）
⑳鴻雪爪翁　一冊　（服部荘夫編。昭和十三年十二月刊。）
㉑田辺良顕伝　一冊　（田辺良顕伝刊行会編。昭和二十四年十二月刊。）
㉒男爵堤正誼略伝　一冊（堤　正之編。昭和八年六月刊。）
㉓雪江・平陵両君の面影　一冊　（平本他敬理編。昭和十一年五月刊。）
㉔牛渚平本良充翁　一冊（平本他敬理編。昭和十年七月刊。）
㉕重要文化財松平秀康及び同母霊屋修理工事報告書　一冊　（高野山文化財保存会編。昭和四十二年九月刊。）
㉖永代大雑書萬暦大成　一冊　（天保十三年刊。）
㉗幕末明治文化変遷史　一冊　（東洋文化協会編。昭和四年三月再刊。）
㉘維新志士遺芳帖　二冊一帙　（渡辺為蔵編。明治四十三年八月刊。）

文書の部

四、絵図・写真

四、絵図・写真

一、伊国ナポリ風景　三葉

台紙付写真　明治初期　三〇・六×三八・一

（松平春嶽旧蔵写真。明治九年五月、勧業寮六等出仕に補せられた佐々木権六が、イタリヤ養蠶公会所へ出張を命ぜられた折の持帰り品を春嶽に進呈したものの一つと思われる。）

一、ウイーン市街写真帳　三十六葉

台紙付写真三十六葉一帙　明治初期　三三×四四

（松平春嶽受贈旧蔵のウイーン市街各種建造物の写真帳。）

一、濠洲風俗・風景写真　六葉

台紙付写真　明治初期　二九・三×三七・七

（松平春嶽受贈手沢の写真類で、オーストラリア原住民風俗、広大な農場風景等が含まれている。）

一、フィラデルフィア市街写真　一葉

台紙付写真　明治初期　三八・三×四三・四

（明治九年、イタリヤ出張に続き、米国独立百年を記念して開催されたフィラデルフィア万国博に派遣された佐々木権六が、松平春嶽に呈したものと推察される。）

一、伊国ベニス港サンマルクの議事堂夜景写真　一葉

台紙付写真　三九×四七

台紙裏書

「明治九年十一月二十八日佐々木長淳差上、伊国ウェニース港サンマルク古代ノ議院夜景」

（佐々木権六より松平春嶽に呈上されたもの。）

一、明治初期、福井城下慶祝風景写真　一葉

台紙貼写真　二一・七×二八

（W・E・グリフィスが、大正中期、米国より春嶽公記念文庫に寄贈したもので、明治初期の福井市街に於ける何らかの慶祝風景を撮影したもので、台紙裏には、グリフィスの自筆書込みがある。初代文庫主松平慶民にあてた郵送時の封筒が付属している。）

一、伊国屑絲紡績場内外景況絵図　二枚

ベネチア、一八七一年製　五六×八〇、六〇×七八・八

絵図裏書

「明治九年欧洲ヨリ齎ス　屑絲紡績場内部の景況　佐々木長淳」

「明治六年欧洲ヨリ齎ス　屑絲紡績場外部の景況　佐々木長淳」

（裏書の如く、佐々木権六が欧洲より持帰り、松平春嶽に上呈したものである。裏書中の明治六年は、九年の誤記である。）

一、サンフランシスコ市街写真　一葉

明治初期歟　三九×五一・五

裏書

「No 628 San Francisco from calporrell Lts. C, E, Walkins」

（松平春嶽受贈旧蔵品。）

一、越前国大野城破損修復之願絵図　一幅

紙本着色　九九×九六

（大正十年七月一日、越前史料の影写収集を行っていた春嶽公記念文庫が、旧大野藩主土井家より借用、影写保存したものである。今日、原本の所在は不明であるから、影写本とはいえ、貴重である。元禄八年

八月、城郭の数箇所を補修する必要の生じた大野藩が、城郭図に細かく修理箇所を記入して幕府に提出した許可願である。猶、本史料は昭和四十七年三月刊行した「春嶽公記念文庫解説目録―文書編―」九十七頁に収録した春嶽公記念文庫影写史料　七十五面」の内の一点であるが、その後本品だけを特に表装して一幅の掛物としたので、改めてこれに収録した次第である。）

一、米国フィラデルフィア万国博の図　一葉

紙本活版　五四・七×七一・三

（明治九年六月、フィラデルフィア万国博に派遣された佐々木権六が、帰国後松平春嶽に呈したもの。）

春嶽公記念文庫解説目録
—追贈　什器・文書編—

昭和50年３月 印刷

発行者　福井市立郷土歴史博物館
福井市足羽１丁目８－16

印刷者　株式会社 吉 田 錦 文 堂
福井市新田塚２丁目100-10
電話（0776）24－８２３２番

慶永書

松平慶永藏

松平慶永書

大府侍郎源慶永

錦之丞八歳書

昭和50年3月

福井市立郷土歴史博物館